

前總司令ニ於テ商議セラレタル懸案ナレハ自ラ応ニ繼續辦理シ以テ解決ヲ期シ度所存ニ有之候然ルニ本件發生ノ原因ハ全ク多數兵士ノ倉卒誤解ノ致ス所ニシテ寔ニ遺憾ノ次第ニ有之候已ニ譚前總司令ヨリ本件各項ノ調査状況ヲ詳細函達致シタル通り即チ各条件ハ分別承認解釈ヲ附シ且ツ改訂ヲ希望シタルモノアルハ事件ヲ慎重ニ取扱フ趣旨ヨリ出テタルモノニシテ本總司令ニ於テ繼續商議スルモ固ヨリ慎重處理シ以テ切実履行ヲ期セサルヲ得サル次第ニ有之候而シテ貴領事側ハ条件ニ對スル説明ハ已ニ尽キタリト稱セラルルモ各案ノ實際情況ニ就キテ尚ホ充分ノ諒解ヲ請ハサル可カラサル所ニ有之茲ニ今回商議ノ結果曩ニ貴領事ト譚前總司令トノ間ニ協議決定已ニ承認ヲ經タル各条項ハ元ヨリ繼續承認致スヘク其改訂希望ノ第一条及第六条ハ再議ノ結果左ノ如ク

第一条 各不法行為ノ直接下手人タル兵卒ハ嚴重之ヲ処置スヘシ但シ各不法行為ニ関スル直接上官ノ查辦ハ亦嚴重查明ノ後適切ノ処置ヲ為スヘシ

第六条 主義上原案ヲ承認スト雖モ支那人損害中荷主ノ損

事項一三 中国内政關係雜件

八一四 四月十六日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛

来朝中ノ總統府秘書孫潤宇中国南北ヲ妥協セシムル
為日本方關係諸国ヲ誘ヒ北方政府ニ共同勸告ヲ為ス
コトヲ要望ノ件

附屬書 孫潤宇ガ高尾總領事ニ對シ為シタル談話要領

政一機密送第四三号

南北妥協問題ニ関シ来朝中ノ總統府秘書孫潤宇来談ノ
件

今般東京ニ於テ開催セラレタル國際弁護士協會ニ支那側代表ノ一人トシテ来朝セル總統府秘書孫潤宇ハ来著勾々本大臣ヲ来訪シ支那南北妥協行悩ミノ情況ヲ説キ之レカ成立ヲ期セムカ為ニハ陰曆客年末日本ヨリ借款ニ応セラレタル際其条件中ニ「南北妥協ノ成立ヲ希望ス」トノ条項アルヲ幸ヒ適當ノ機會ニ於テ日本ヨリ關係諸国ヲ誘ヒ更ラニ有力ナル勸告ヲ支那政府ニ致サルルコトナラハ之ニヨリテ反對派ヲ抑圧シ局面ノ展開ヲ容易ナラシメ得ヘシトノ旨ヲ述べ

害ハ日清汽船ノ査定額ニ基キ切実斟酌シ別ニ公正ノ処置ヲ講スヘシ

ト改メ候查スルニ原条件綱領所載ノ損害賠償ニ付テハ日本人ト支那人トニ何等區別シ居ラサルニ依リ譚前總司令ニ於テ特ニ支那人ノ損害ヲ包含セサルヲ声明シ支那人ノ損害ハ支那官憲ニ於テ調査辦理スル旨附加シ置キタル次第ナル処貴國總領事及貴領事ハ此点ヲ分別解釈シテ湘潭代理店支那人及汽船水夫等ノ支那人ハ日本商ノ直接使用人ニシテ応サニ分別辦理スヘク支那人荷主ノ損害ハ稍々巨額ナルニ依リ支那官憲ヨリ査酌辦理スヘク但シ日清汽船ニ累ヲ及ボサランヲ期シ別ニ相當ノ処置ヲ執ルヲ妨ケスト為サレタルヲ以テ茲ニ併セテ再ヒ声明致シ置キ度右今回ノ磋商決定ニ基キタルモノニ有之候ニ付テハ右御査照相成度此段回答申進候 敬具

趙恒惕

(十二月二十七日)

タルニヨリ本大臣ハ右ニ對スル一応ノ所感ヲ申聞ケタル後本件及支那時局ノ現状ニ就テハ尚ホ高尾總領事迄詳細内話シ置カレ度旨ヲ求メ置タル結果同總領事ヨリ復命セル談話要領別紙ノ通りニ有之候

其後同氏ハ原總理大臣ニモ面会致シ略同様ノ次第ヲ陳述致候趣ニテ其態度等ヨリ察スルニ本件ノ申出ハ同人ノ言明通り全ク支那政府要路ノ向ノ内命ニ基ケルモノカトモ認メ居タル折柄同氏ハ四月十三日歸国挨拶ノ為メ重ネテ本大臣ヨリ来訪致シ前頭申出ニ對スル我方ノ意向ヲ質シ候間本大臣ヨリハ大要左記ノ通り説示致置候

支那南北妥協ノ速ニ成立センコトハ關係諸国ノ常ニ熱望スル所ニシテ殊ニ隣邦帝國ノ立場トシテハ一層痛切ニ其要ヲ認メ居ルモノナリ左レハ客年末帝國ハ右妥協ヲ条件ノ一トシテ急場ノ借款ニ応シタルカ如キ其最モ顯著ナル証左ニシテ更ラニ帝國ハ引続キ關係諸国ト共ニ大借款ノ成立ニ尽瘁シ不遠其實行ヲモ見ントシツツアル現状ナルカ故ニ妥協ノ成立ヲ希望シ居ルハ勿論ノ儀ニシテ關係諸

国ニ於テモ亦同様ナルヘキハ疑ヲ容レズ左リナカラ帝國
カ此際率先シテ勸告ノ挙ニ出テ若クハ大借款ノ成立前ニ
於テ關係諸国ヲ誘ヒ之ヲ行ハントスルカ如キハ最も考慮
ヲ要スヘキ問題ニシテ前者ニ在テハ支那ニ於ケル排日風
潮ノ未タ終熄セサル今日却テ反對ノ結果ヲ見ルノ虞レア
ルヘク後者ニ在テハ之ヲ行フノ時機ニ就キ篤ト考究セザ
ルベカラズ因テ今日ノ場合支那政府ノ取ルヘキ方針トシ
テハ一日モ速ニ大借款ノ成立ヲ促シ之ニヨリテ政治財政
並ニ軍隊解散等ノ方法ヲ講シ關係諸国ヲシテ勢ヒ妥協ノ
成立ヲ勧誘セザルベカラザルノ氣運ヲ實現セシムルコト
緊要ニシテ斯クシテ始メテ其目的ヲ達成シ得ヘクト信セ
ラル貴下帰国ノ上ハ右ノ方針ニ基キ局面展開ノ策ヲ講ス
ル様要路ノ向ヘ進言セラレテハ如何

ト述ヘタル処孫氏ハ至極尤モナリト首肯シ次テ同氏ハ借款
ノ成立ハ支那朝野ノ等シク望ム所ナルモ右ニ就キ財政ノ監
督ヲ受クルカ如キ嫌アル条件ヲ附セラルルコトハ好マシカ
ラズトノ意向ヲ洩ラセルニヨリ本大臣ハ借款ニ依ル財政ノ
整理ハ務メテ周到ノ用意ヲ払ヒ其ノ支途ニ就テハ特ニ嚴重
ナル監督ヲ行ハザルベカラズ是レ支那政府当然ノ責務ナル

トシテ来朝滯京中ノ支那大總統府秘書兼國務院顧問衆議院
議員孫潤宇氏来訪支那時局問題ニ関シ語ルトコロ大要左ノ
通り

一 今回自分ノ来遊ニ際シ徐大總統及靳國務總理ヨリハ特ニ
日本朝野ノ士ト意思ノ疏通ヲ図ルヘキ旨ヲ命セラレ殊ニ
靳總理ヨリハ支那曆昨年末日本政府力難キヲ忍ヒ率先シ
テ急場ノ借款ニ応セラレタルハ支那政府ノ深く感謝スル
所ナル旨内田外務大臣ヘ面陳スヘキ旨ヲ命セラレタルニ
付前日同大臣往訪ノ砌委細御伝ヘ致シタル次第ナリ
一次ニ自分ハ支那南北妥協問題ニ関シ靳總理一派ノ所感ト
シテ内密内田外務大臣ヘ申述ヘタル次第アル処同大臣ヨ
リハ右ニ就テハ尚ホ詳細ナル情況ニ亘リ特ニ貴官(高尾)
ヘ御話シ置クヘシトノコトナリシニヨリ本日来訪セル次
第ナリ

一 南北妥協ニ関スル現今ノ状態ハ全ク行詰ニシテ之ヲ北方
側ノ内情ヨリ申サハ徐樹錚一派ノ安福俱樂部系ノ策士等
カ主トシテ反對シ居ルカ為メナリ

一 安福俱樂部派反對ノ底意ハ若シ南北妥協成立スルニ於テ
ハ自派ノ勢力全然失墜シ再ヒ政界ニ立ツヘカラサル運命

ト同時ニ出資者ノ立場ヨリスルモ忌憚ナク云ハシムレハ支
那多年ノ積弊タル地方軍憲等ノ軍隊費用ヲ著服シテ私利ヲ
貪ルカ如キ不都合ヲ除キ正当ニ借款資金ヲ使用センコトヲ
望ムハ此亦当然ノコトニシテ徒ラニ体面ニノミ拘泥スヘキ
問題ニアラズ要ハ實質上完全ニ支途ノ目的ヲ達スルニ在リ
殊ニ各種借款中鉄道借款ノ如キハ其建設及經營ニ当リ外人
ノ技師及會計監督ヲ入ルルカ如キハ尤モ必要ノ挙ニシテ之
レニヨリテ始メテ生産的ニ利益ヲ挙ケ得ヘク又支那トシテ
ハ務メテ斯種生産的借款ヲ歡迎セムコトヲ望ムモノナリト
説示致置候

右様ノ次第ナルニ就テハ孫氏帰国ノ上或ハ前頭ノ妥協勸告
云々ノ問題ニ就キ支那側ヨリ何等貴官ヘ申出ノ次第モ可有
之ト存セラルルニヨリ其節ハ右本大臣ヨリ申聞ケ置キタル
要領ニ基キ可然応酬セラルル様致度尚ホ先方來談ノ際特ニ
当方ノ参考トナルヘキ事項等有之候ハバ貴見ト共ニ詳細報
告アリ度此段申進候也

(附屬書)

孫潤宇ノ高尾總領事ニ對シ為シタル談話要領

大正九年四月六日目下國際弁護士協會支那側代表者ノ一人

ニ遭遇スルカ為ナリ

一 這般ノ消息ヲ明ラカニセムカ為メニ昨年来南北實力派ノ
間ニ密ニ來往協議ヲ遂ケ陽曆本年二月中旬ニ至リ江蘇督
軍李純ノ斡旋ニヨリテ成案ヲ得タル成行ヲ説明スヘシ
一 昨年八月ノ交王北方代表唐南方代表ノ間ニ八ヶ条ノ妥協
条件ヲ議シタルコトハ當時世人ノ周知セル事實ナル処右
ハ双方ノ意見一致セサリシ為メ解決ヲ見ス次テ再ヒ會議
停頓ノ羽目ニ陥リタル次第ナルカ北方實力派タル東三省
巡閱使張作霖直隸督軍曹錕江蘇督軍李純ノ三者ハ南北妥
協ヲ引続キ文治派ノ手ニ委ネ置クモ到底奏効覺束ナキモ
ノト認メ從來ヨリ密ニ氣脈ヲ通シ居タル南方實力派タル
陸榮廷唐繼堯ノ兩者ト右ノ八ヶ条ヲ基礎トシ李純ヲ中介
者トシテ内密交渉ヲ開始セリ

一 其結果陽曆本年二月ニ至リ

一 各省地方議會ヨリ各二名ツツノ代表ヲ選出シ議院選舉
法ヲ議定シ同時ニ現在ノ南北新旧両國會ヲ消滅セシメ
直ニ新議定ノ選舉法ニヨリ新國會ヲ招集スルコト
二 弼政院ヲ設ケ總裁六名參議十六名ヲ置キ大總統ノ政務
諮詢機關タラシムルコト

三軍政ノ整理及軍隊解散ノ方法等ニ就テハ別ニ協議決定
スルコト

四段内閣以來訂結セル外国トノ秘密条約ハ之ヲ公表シ若
シ不都合ト認ムル約定アラハ訂正若クハ廢棄スルコト
五妥協成立ノ上ハ各省督軍聯名ニテ祝電ヲ中央ニ発シ一
致シテ祝賀スルコト

ノ五ヶ条ヲ協定シ直ニ中央政府ノ允許ヲ求メタリ

一然ルニ徐大總統及ヒ靳總理ニ於テハ右ノ五ヶ条ニ異議ナ
ク南方側サヘ纏メ得ルニ於テハ直ニ公表差支ナシトノ意
向ナリシモ徐樹錚一派ノ安福系ハ猛烈ニ反対ノ氣勢ヲ挙
ケタリ

一其底意ハ若シ右条件ノ下ニ妥協成立スルニ於テハ

第一、自派ノ多数党ニヨリ現ニ組織セラレ居ル所謂北京

新国会ナルモノハ消滅シ政界ノ地盤覆サルコト

第二、右ノ結果トシテ現在ノ如ク少クモ政府ノ要路ニ司
法、財政、交通ト云フカ如キ自派ノ人物ヲ出スコト能
ハサルコト

ノ二大不利益アルカ為メニシテ徐樹錚ノ如キハ之レカ為
メ蒙古ノ任地ヨリ急遽上京シ極力妨碍運動ニ狂奔セル次

一因テ自分等ハ此際何等カノ新タナル手段ニヨリ局面展開
ノ方法ヲ講スルノ急務ナルヲ認メ密ニ靳總理ノ腹心タル
陸軍次長張志潭ト協議ノ結果結局友邦ノ助力ヲ仰クノ外
ナキモノト認ムルニ至レリ

一其方法トシテハ日本政府ハ旧暦昨年末借款ニヨリテ支那
ノ急場ヲ救済セラレタル際其条件中ニ「支那南北ノ妥協
成立ヲ希望ス」トノ一条項アリ

一右ノ希望ハ支那当局トシテハ固ヨリ之ヲ歡迎シ且ツ遲滯
ナク実行スヘキモノタルハ論ナキ次第ナル処前陳ノ経緯
ニテ現在ノ始末ナルカ故ニ此ノ際日本政府率先シテ關係
諸国ニ提唱シ重ネテ北方政府ヘ協同勸告ヲ行ハルコト
トセハ極メテ好都合ノコトナリト信ス

一右ノ方法ハ徐大總統及靳總理ニ於テモ内密希望シ居ラル
ルコトト信セラレ自分今回ノ來遊モ実ハ弁護士協會カ主
タル要件ニ非ス此ノ仲間ニ加ハリテ参ラハ世間ニ目立タ
ヌカ為メニシテ張志潭ト合議ノ上特ニ此ノ秘密要務ヲ帶
ヒ内田外相ニ面陳ノ為メ來レルナリ（高尾ノ感想ニ拠レ
ハ右ノ要務ハ儘ニ靳總理ノ指図ニ出テタルモノト察セラ
レタリ）

第ナリ

一蘇テ安福系ノ頭領ト目セラルル段祺瑞ノ態度ハ如何ト云
フニ一言ニシテ云ハハ進退兩難ノ羽目ニ立チタルモノニ
シテ即チ妥協条件ヲ纏メタル張、曹、李ノ一使二督軍ノ
希望ヲ斥クルカ如キハ如何ニ徐樹錚等ヲ擁護センカ為メ
トハ云ヒ北方實力派ニ反抗スルカ如キ態度ニハ出テ難ク
去リトテ之ヲ容ルルカ如キハ元來南方派ノ不誠実ナル態
度ヲ惡ミツツアル同氏ノ性格トシテハ到底服従シ難ク頗
ル苦境ニ陥リタル次第ナルカ結局同氏ハ本件ノ採否ヲ全
然政府当局ノ採決ニ一任シ傍觀ノ地位ニ立ツニ至レリ

一斯ル情態ナリシヲ以テ政府当局タル靳總理ハ徐大總統ト
共ニ其実行ヲ希望シ居リタルニ拘ラス安福派ノ反対ト段
ノ真意ヲ計リ兼ネ遂ニ有耶無耶ニ葬リ去リ以テ今日ニ至
レル次第ナリ

一然ルニ南北實力派ノ五人者ハ世界ノ趨勢ト相俟テ支那時
局ノ推移一日モ忽ニスヘカラサル危機ヲ醸シツツアルノ
状態ニ顧ミ李純ノ如キハ爾來屢々中央ニ迫リテ解決ヲ促
シツツアルモ中央關係行詰ノ有様ハ依然トシテ變ラス徐
大總統始メ真ニ憂慮シツツアル次第ナリ

一幸ニシテ日本政府カ右ノ手段ヲ執ラルルコトトナラハ支
那側ニテハ先ツ李純ニ内命ヲ伝ヘテ前述ノ南北五督軍ヨ
リ聯名ニテ速ニ協定済ミノ五ヶ条ノ条件ヲ実行セラレ度
旨ノ電報ヲ中央政府ニ発セシメ同時ニ其電文ヲ新聞ニ公
表シ以テ日本ノ主導セル關係諸国ノ勸告方ヲ実行シ此ノ
力ニヨリテ難關ヲ切り抜ケ一挙ニシテ妥協ヲ成立セシメ
ント欲スル次第ナリ

一自分等ノ希望トシテハ切ニ右ノ方法ニ拠ラントスル次第
ナルニ就テハ貴官ヨリ詳細ニ前述ノ次第ヲ内田外務大臣
ニ代達セラレ是非共御採納アラムコトヲ切望ス

一愈々右ノ方法ヲ試ムヘシトノコトニ決セラレタル際ニハ
小幡公使ヘ内密其旨ヲ伝ヘラレ勸告ノ時機及方法等ニ就
テハ張志潭又ハ自分等ト内密打合セラルル様予メ御手配
置アリタシ尚ホ本件ハ事ノ成否ニ論ナク絶対極秘ニ附セ
ラルル様特ニ御注意ヲ望ム

以上ハ孫ノ小官ニ為セル談話ノ要領ナル処本件妥協ノ成否
ハ南北實力派ノ提携ニ依テ行ハルルモノタル性質ニ顧ミ近
頃紛糾シツツアル陸榮廷對唐繼堯ノ葛藤ハ大ナル障害トナ
ルニアラスヤトノ問ニ對シ孫ハ夫ハ懸念ニ及ハス原來兩者

ニ對シテハ妥協成立後ノ地位ヲ確保シアリ即チ陸ハ兩広巡閱使トナリテ広東廣西ヲ統轄シ唐ハ雲南貴州四川ノ巡閱使トシテ三省ヲ總フルコトトナリ居ル次第ナレハ寧ろ速ニ成功ヲ希望スルモノト見テ差支ナカルヘシト答ヘタリ

八一五 六月二十一日

在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国政局ノ混乱、財政ノ窮乏、過剩軍隊ノ存在等ノ為早晚國家ガ崩潰スベキコトニ關シ英國公使ト意見交換ノ件

第五七七号

(六月二十二日接受)

六月十六日本使英國公使ニ面会谈偶々支那時局問題ニ及ヒタル際本使ハ今や南北ノ對峙轉シテ南北各軍閥文治兩派ノ確執トナリ政界ノ形勢ハ横断ヨリ進ムテ縦断ニ推移シツツアリテ局面ハ益々統一收拾ヲ難シトスルノ状アリ而シテ一面ニハ中央ノ財政日ニ窮乏シ繼ニ弥縫ヲ加ヘテ目前ヲ糊塗シタルモ到底斯カル姑息ノ弥縫政策ハ何時迄モ存続ヲ許ササルヘク現在中央政府ノ依頼スル確實ナル財源ハ関稅、塩稅外一二少額ノ稅目ニ過キス而シテ関稅ハ數年後各國力團匪賠款ノ支払ヲ復旧スルニ至ラハ到底中央政費ノ財源ニ当

ツルノ余裕ナカルヘク塩稅余款モ亦今日ノ如ク先々ノ收入ヲ見越シ内債ノ担保ト為シツツアルノ狀況ニテハ塩稅其ノ物ノ担保力モ日ニ薄弱トナリツツアルモノト觀ルノ外ナク各國ニ對スル財政ノ基礎タルヘキ有力ナル財源ハ益々枯渴ノ一方ニシテ繼ツテ他ノ一面ヲ觀ルトキハ國家歳入ノ殆ト三分ノ二ハ不必要ナル軍隊ノ費用トシテ取り去ラレ然モ其ノ内ノ鮮カラサル部分カ督軍以下上級軍官ノ私囊ニ入り教育、殖産、工業若クハ將來國家ノ進展ヲ齎スヘキ各種積極的ノ行政ハ之カ為メ殆ト曠廢ニ歸シ剩ヘ内外資本家ヨリ供給セラレタル借款中元金ハ愚カ其ノ利子スラ完全ニ支払ヲ為シ得サル状態ナリ今ニシテ何等救済スル所ナクムハ早晚國家ノ破産崩潰ヲ来スノ外ナキ有様ニシテ此等ハ何レモ官民共ニ衷心國ヲ思フノ誠意ヲ欠キ只管私利私慾ニ依リテ党同伐異其ノ政權(脱)腐心ニ外ナラス而シテ其弊害甚タシキモノハ督軍制度及ヒ之ニ伴フ過剩軍隊ノ存在ナルカ之等年來幾多ノ弊風ハ今や殆ト其ノ極点ニ達シ而モ彼等支那人自身而已ヲ以テシテハ到底之ヲ救済改善スルノ力ナク從テ永ク自然ノ成行ニ放任セハ支那ハ遂ニ其ノ存立ノ基礎ヲ失フノ外ナク由々數大事ヲ惹起セサルヲ得ス之ヲ以テ支那ニ

對シ利害ヲ有スル諸強國ハ已ムヲ得ス相共ニ之ニ処スルノ方策ヲ議シ國政根本的改善ノ方針計畫ニ關シ適當ノ指導ヲ支那ニ向ツテ加フルノ必要アルヘク本使ハ右等措置ニ付列國間ニ協調考慮ヲ試ムルノ時期或ハ既ニ到来シツツアルニアラスヤト思考スト全然一個ノ私見トシテ敷衍詳述シタル処英國公使ハ実ハ自分モ着任以來再ヒ親シク當國ノ実状ヲ見テ窃ニ憂慮ニ堪ヘス此ノ件ニ付一度英國公使トモ私見ヲ交換シタルコトアリトテ本使ノ意見ニ同感ヲ表シ之等改善勸告ニ關スル一端ハ何レ来ルヘキ借款ニ關連セシメテ支那ニ申入ルルノ時機アルヘキカト考ヘ居ルト述ヘ猶雜談ヲ交ヘテ立分レタル処越エテ十八日英國公使館宴會ノ席上同公使ハ本使ニ對シ前記会谈ノ次第ハ英國公使ニモ伝ヘタル処同公使ニ於テモ同感ニシテ何回ニテモ協同勸告ノ措置ニ參加スルヲ辞セストノコトナリシ旨ヲ述ヘ恰モ本使ニ於テ南北統一問題ニ關スル協同勸告方ニ付何等カ具體的提議ヲ為シタル様ノ印象ヲ有シ居ルヤニ觀取セラレタルニ付本使ハ前記ノ陳述ノ次第ハ單純ニ南北統一ニ關シ一片ノ勸告ヲ要スト云フカ如キ小ナル問題ニアラストテ再ヒ其ノ本旨ヲ略述シ其ノコトナラハ曩ニ「ラインシュ」公使ヨリ第二回和

平勸告ノ提議アリ本使ニ於テ之ヲ「セコンド」シ「ジョルダン」公使ハ其ノ効ナカルヘシトテ甚タ氣乗リセサリシニ拘ラス遂ニ之ヲ実行スルコトトナリタル次第ナルカ其ノ実一向効果ラシキ效果モナク今以テ何等解決ノ曙光ヲモ見サル有様ニテ斯カル勸告ニ止マル儀ナラハ本使トシテハ此ノ際之ヲ行フモ猶未タ実効ヲ見ルコト到底六ヶ敷カラント思考ス而シテ前日本使ノ開陳シタル所ノ如キハ各本國政府ニ於テ慎重考慮ヲ廻ラスヘキ問題ニ屬シ本使ハ單ニ時局ニ對スル本使一個ノ觀察ヲ忌憚ナク申述ヘタルニ過キスト答ヘ置キタリ

右ハ或ハ英國公使ヨリ本國政府又ハ在本邦英國大使等ニ通報シ居ル等ノコトナキヲ保シ難シト存シ為念電報ス(奉天中継 六月廿一日后六・三〇)

八一六 七月二十九日

在上海山崎總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

孫文唐紹儀伍廷芳唐繼堯ノ発表セル和議問題ニ關スル宣言書内容報告ノ件

第二二一号

(七月三十日接受)

孫文唐紹儀伍廷芳唐繼堯ノ四總裁ハ七月二十八日附ヲ以テ

和議問題ニ関スル宣言書ヲ發表シ漢字新聞及英字新聞ニ掲載セラレタルカ其要点左ノ如シ

吾人ノ本年六月三日附宣言書(往電第一二五号)ニ対シ北方ノ賛成者ハ段祺瑞及其部下曲同豐等アルノミナルカ段ノ回答電報ニ依レハ彼カ悔悟ノ情言辭ニ現ハレタルヲ認ム吾人ハ素ト護法救國ヲ標榜スルモノナルカ故ニ和議条件中日支二十一ヶ条條約ノ取消及民國六年六月十二日ノ非法命令ノ無効宣布ニ重キヲ措クモノナリ而シテ北京辺防処ハ日支軍事協定廢止決定ノ電報ヲ発シ且ツ二十一ヶ条條約ノ取消ヲ承認スルノ意思ヲ表示セリ是レ北方ニ已ニ外交政策改變ノ意思存スル所ナリ吾人ハ北方内訌ノ結果如何ヲ論セズ又当局者ノ何者タルヲ問ハズ西南護法救國ノ主張ヲ貫徹セントス故ニ北方ニシテ果シテ統一ヲ望ムノ誠意アラバ須ク先ツ日支軍事協定ヲ廢止シ二十一ヶ条條約ノ取消ヲ宣布シタル後ニ於テ和ヲ講スベシ云々

転電先 北京、広東

八一七 八月五日 在北京坂西陸軍少將ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

徐大總統時局ノ處理ニ於ケル自己ノ不明ヲ謝スル大

事ヲ見ル不明、機ニ臨ミテ果斷ナラサリシカ為ナリ最初安寧靜息主義ハ乱ヲ招クモノト思ハザリシモ我徳ノ薄キ才能乏シキ何ゾ自ラ怪シムヲ要セン今や國勢日ヲ追フテ益々困難ナルヘク因果応報ノ統テ来ルヲ思ハバ實ニ戰慄歎息スヘキモノアリ願クハ我邦人君子一ニ禍ヲ悔ユルヲ以テ心トナシ必ス正道ニ復歸シ國家ノ威信ヲ昂メ時局ノ紛争ヲ解キ人々皆自ラ顧ルノ心アラバ爾来此世ニ競争ノ憂少カルヘク國ノ為民ノ為百事治ルニ至ルベシ凡ソ我有衆夫レ共ニ之ヲ努メヨ茲ニ令ス

右命令ハ正ニ徐大總統カ臆面モナク官僚ノ本音ヲ吐キ所謂八方美人主義ヲ以テ民國統治ノ本領トシテ怪マス就中一党ニ私セサリシ為彼自ラヲ守ル能ハス又彼ハ一人ヲモ私的ニ用ヒサリシ為云々トノ如キハ公平ヲ街ウテ各々己ノ罪ヲ人ニ課セントスルモノニシテ事實(脱)カラス又其後ニ述ヘタル因果応報ノ罪ノ来ルヘキヲ思ハバ云々ノ如キハ彼モ亦直隸派ヲ利用シテ國民大会開催ヲ主張シ而モ過激派臭味ヲ有スヘシ又一方政客ハ奉天派ヲ利用張作霖ヲ副總統ニ推シテ自己ノ立場ヲ有利ナラシメントノ魂胆ヨリ安福俱樂部ハ解散スルモ旧国会自然消滅ノ今日ハ徐總統ノ位置ニ動揺ヲ

總統令發布ノ件

坂極秘電第六九号

(八月九日外務省写接受)

昨四日曹錕張作霖相次デ入京セル當日大總統自ラ其不明ヲ訴フル為左ノ如キ命令ヲ出セリ此ノ全文左ノ如シ

本大總統ハ就職ノ初ヨリ兵争行為ハ不祥事タルヲ知り國ヲ治メ民ヲ安スルヲ以テ趣旨トナシ廣ク進言ヲ容レ隱忍スルコト茲ニ二年唯誠心ヲ以テ各方面ノ意見ヲ融和シ遂ニハ自說ヲ枉ケテ他人ノ說ヲ用フルコトヲ重ンジ先ツ專ラ調和ヲ計レリ然ルニ一政党ノ行動專制ナリシ為激シキ政争ヲ起シ尚ホ熈マズ遂ニハ兵乱ヲ以テシテ予ヲ執リ血ヲ北京ニ近ク曝シ心ニ期スル所遇々事實ト反ス若シ我ガ制御宜シキヲ得ハ何ゾ今日アルヲ致サン遂ニ士卒ヲシテ骨ヲ曝シ小民ヲシテ塗炭ニ陷レシム誰カ之ヲ為シ誰カ令シテ之ヲ致シ以テ局面ノ紊乱ヲ釀成セシメタルモノゾ自ラ反省後悔スルモ亦遂ニ及フナシ況ヤ民國ノ擾乱屢々ナルニ於テヨヤ本大總統前轍ノ失ニ懲リ後車ノ戒ヲナシ竊ニ一党派ニ偏セサリシ為遂ニ兵争ヲ止メシムル能ハズ一人ヲモ私的ニ用ヒザリシ為朋党相倚リ政權ヲ把持スルモノノ為ニ反テ乘セララル所トナリ諸惡交々至ル之ヲ全然經過セシメタルハ更ニ甚タシ是レ皆

来サシメサルヘキヲ標榜シテ新國會存設ヲ主張シ紛糾ヲ重ナルヲ予期シテ戰慄シツツアルハ之ヲ見ルニ難カラス而シテ此命令ヲ見ルモ毅然タル抱負ヲ有シテ統一ノ目的ヲ達セントスル意氣アルヲ見ス旧官僚中比較的有望ナリト認メ来リタル段祺瑞ノ命令ヤ遠カラス徐亦覺悟シ帝國ハ支那ノ前途ノ為革新の覺悟ヲ要スルノ時ナリト信シ更ニ熟慮ノ上他日愚見ヲ陳述セントス(終)

八一八 八月七日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

靳雲鵬坂西少將ニ対シ總理就任ニ決シタルニ付日本ノ充分ノ援助ヲ得度旨小幡公使及日本政府ニ伝達ヲ依頼ノ件

第八一三号 (八月八日接受)

昨六日靳雲鵬坂西少將ヲ招キ全人ガ張作霖及曹錕ヨリ遅レテ入京セルハ吳佩孚ノ主張ニ係ル國民大会開催ノ件ニ関シ何等決定ヲ見ズ斯クテハ靳ニ於テ内閣ヲ組織スルコト到底不可能ナルヲ以テ其入京前國民大会開催問題ヲ決定シ置ク必要アリタルニ依ル然ルニ大總統ヨリ前後數回モ人ヲ派シテ靳ノ入京ヲ促スト全時ニ張作霖曹錕ヨリモ種々勸告スル

所アリ遂ニハ特別ニ臨時汽車ヲ準備シ入京ヲ促シ止マザルニ付余儀ナク入京シタル様ノ次第ナリ国民大会問題ニ関シテハ大總統ハ勿論張作霖ニ於テ絶對ニ反對ナルノミナラズ曹錕ニ於テモ強硬ニ之ヲ支持シ居ラザル次第ニ付斬ハ入京以來呉佩孚ト数時間ニ亘リ国民大会ニ依リ政務ヲ決セントスルハ現在政治組織ヲ根底ヨリ破壊セントスルモノナルコトヲ切論シ呉モ漸ク之ヲ諒解シタルニ依リ斬ニ於テ總理ニ就職ノ決心ヲ為シ同時ニ第一ニ將來ハ憲法其他法規ノ規定以外ニ總理ノ職權ヲ犯シ之ヲ掣肘スルガ如キコト断ジテアルベカラザルハ斬從來ノ主義ニシテ大總統張作霖ニ於テモ全然全意見ナルハ勿論曹錕トシテモ之ニ異論アルベキ謂レナキ次第ナルガ故ニ其他南北和議軍事外交財政諸問題ニ関シ協議ヲ遂ゲ是又略々全意ヲ得タルヲ以テ愈々難局ヲ引受ケタル次第ナルコトヲ内話シ外交上ニ付キテハ日本ト提携セザルベカラサルガ故ニ斬ハ將來十分右ノ方針ヲ以テ進ミ行ク決心ナルニ付日本側ニ於テモ十分此ノ趣旨ヲ諒シ必要ノ場合ニハ十分ノ援助ヲ与ヘラルル様特ニ本使及日本政府ニ伝達ヲ請フ旨依頼セリト云フ右ハ坂西少將ヨリ陸軍ヘ電報セル筈ナルモ全少將ヨリ今七日右ノ如ク申出デアリタル

記官「テニー」等ナルベシ）直隸派ノ背後ニアリテ之ヲ日本、支那離間ノ具ニ供セントスルコト之レナリ此ノ件ニ就テハ予ハ曹錕ニモ注意シ又各省ニモ電報シテ外人ノ画策ニ弄セラレサル様注意シ置ケリ

三、東清鐵道哈爾濱以東及同以南沿線ニ日本軍駐屯ニ就テハ既ニ昔日（露国？）ニ与ヘタル權利ヲ日本ニ与フルモノナルヲ以テ會議センニ不可能ニアラサルモ唯日本ハ何事モ打開ケテ相談ヲ掛ケラルルコトナク（以下七字電文不明）

四、「セメノフ」軍カ支那領土ヲ通過シテ浦塩ニ入ラントスル際之カ武装ヲ解除シ兵器ハ後ニ浦塩ニ輸送スルコトニ決シ本日電報シ置ケリ之レ「セメノフ」及予トノ從來ノ交驩上当然ノ事ナリ

要スルニ日支提携主義ハ予ハ飽迄実行スル積リニシテ今回歸奉後（脱）等東京ニ旅行シ尚今秋ニハ予自ラ東遊シ度キ考ナリ云々

（各地濟）

八二〇 八月二十日

在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

新内務総長張志潭孫潤宇ヲ使トシテ就任挨拶ヲ為シ

一三 中国内政關係雜件 八二〇

ニ付念ノ為電報ス
広東、上海ヘ電報シ天津ヘ郵送セリ

八一九 八月十八日 東在中国日本公使館附陸軍武官ヨリ
上原參謀總長宛（電報）

中国ノ政局セメノフ軍ノ中国領土通過日中提携主義
実行等ニ関シ張作霖談話ノ件

支第六〇〇号 （八月二十一日外務省寫接受）

昨十七日張作霖ヲ訪問ス其談話ノ要旨左ノ如シ

一、今回変乱ニ対シテハ予ハ從來ノ關係上只管調停ノ勞ヲ取ラントセシカ段派ガ予ノ忠言ヲ用ヒサリシ結果危害ヲ加ヘントスルニ至レルヲ以テ万止ムヲ得ズ此ノ如キ処置ニ出テタルモノニシテ予トシテハ遺憾ニ堪ヘズ然レドモ段祺瑞ニ対シテハ何等惡感ヲ有シアラズ彼亦今次ノ失敗ニ依リ其ノ勢力ヲ喪失シタル者ニアラサルヲ以テ後日又抬頭ノ期アルベシ予ハ目下斬ヲシテ内閣ヲ組織セシメタルハ全ク後日更ニ段ヲ推シテ平定ノ業ヲ為サントスル準備ニ外ナラサルナリ

二、国民大会ノ如キハ問題トスルノ価値ナシ唯恐ルヘキハ列国人ガ（即チ「キンナワセ」、「シンブソン」、米國書

共助ノ精神ヲ以テ日本トノ交渉問題ニ関シ充分尽力スル覚悟ナル旨申出ノ件

第八六五号

（八月二十一日接受）

此程張志潭ハ特ニ孫潤宇ヲ使トシテ本使ニ対シ内務総長トシテ入閣シタル挨拶ヲナシ將來ハ是迄以上ノ援助ニ預リタク張ニ於テモ日本トノ交渉問題其他ニ関シ充分尽力ヲ辞セザル覚悟ナルニ付之ヲ諒セラレ度ク實ハ從來トテモ充分日支提携ニ尽サント欲スルノ所存ナリシモ種々ノ掣肘アリ其意ニ任セザリシ次第ナルモ今回ハ斬總理ニ於テ實權ヲ占ムル内閣トナリ張等ノ意見モ充分採用セラルベキヲ疑ハザルニ付相互ニ共助ノ精神ニテ打解ケ交渉シタシト申出デタルニ付本使ハ張ノ好意ヲ謝シ將來ハ必ズ右申出ノ精神ニ依リ實際シタキニ付張氏ニ於テモ充分此意ヲ諒セラレタシト答ヘ今回兩派ノ争鬭ニ対シテ日本ガ嚴重中立ヲ守レルコトヲ切言シ其後ニ於ケル徐樹錚以下ノ保護ハ全然人道上ヨリ来ル別問題ニシテ一党一派ヲ助クル意味ニアラザルコトヲ詳細説明シ誤解ナキ様張氏ニ伝達アリタシト述べタルニ孫ハ其点ハ張其他ニ於テ充分了解シ居レリト云ヘリ

右孫來訪後數日深沢ニ懇談ノ次第アリト同書記官ヲ招待

シ本使ニ対スル張志潭ノ伝言ノ注脚トモ目スベキ内談ヲナシタル中ニ張ノ現内閣ニ於ケル地位ノ有力ナルコトヨリ説キ起シ将来交通農商其他ノ交渉問題中面倒ナルモノハ必ズシモ外交部其他当該部ト直接交渉ニノミ委ヌルコトナク張志潭ハ内部ニ於テ必ズ斡旋尽力ヲ試ムベクサスレバ面倒ナル問題モ双方ノ為メ簡便ニ片付ク次第ナリト述べタル趣ナリ

張志潭一派ハ之迄当館ト相当親密ノ交際アリ且充分ノ連絡ヲ保チ来レルヲ以テ右ノ申出ハ新タニ交際ヲ求ムルタメノ空世辞トモ認メラレザルモ将来果シテ何処迄頼リト為スニ足ルヤハ今後ノ實際ニ照ス外ナキモ不取敢御参考迄

八二一 八月二十一日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

边防軍訓練所廃止決定ニ関シ報告ノ件

第八七五号

(八月二十二日接受)

边防軍訓練所ハ政局ノ行掛上解散ノ外ナキ様思ハレシモ靳雲鵬ハ兼テヨリ陸軍部ニ於テ我ガ教育總監部ノ如キ機關ヲ設ケ度キ意向ヲ有シ居タル為今回總理就任ノ機會ニ於テ之ヲ貫徹セントシ暫ク同所処分決定ヲ待チ呉レト坂西少將

ニ告ゲ從テ其儘トナリ居リシ処其後張作霖曹錕ト共ニ中央ニ何等有力ナル軍隊ヲ置クコトヲ希望セザルコト明トナリ靳ニ於テモ強テ其希望ヲ切出シ難カリシモノト見エ同所ハ愈々八月十八日限り解散スルコトニ決シ殘留傭聘教官モ全部引上グルコトト為シタル趣ナリ詳細ノ儀ハ坂西少將ヨリ陸軍筋ヘハ報告済ノ由ナルモ同少將ニ於テ特ニ報告アリタルニ付為念

内密ノ含迄ニ上海広東漢口南京天津濟南奉天哈爾濱吉林ヘ郵報セリ

(奉天中継八月二十二日前三・五〇分發)

八二二 八月二十四日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

顔外交總長日中国交際密化ニ努力シ度考ニテ駐日公使ニ適任者物色中ナル旨談話ノ件

第八八七号

(八月二十五日接受)

八月二十四日新任挨拶答札ノ為本使顔外交總長ヲ往訪シタル処同總長ハ新内閣ニ依リ組織セラレタル現政府ハ日支邦交ヲ益々親善ナラシメ度キ考ヲ有シ未ダ其政綱トシテ決定シタル次第ニハ非ザルモ國務會議等ニ於テ既ニ折ニ触レ右

ノ意見討議セラレ閣員其ノ他ニ於テモ何レモ日支ノ關係ヲ親善ナラシムルノ最モ緊要ナルヲ認メ居ル次第ニシテ殊ニ之ガ実現ヲ期スルタメ先ズ駐日公使ノ任命ニ重ヲ置キ日本朝野ノ信頼ヲ得ルニ足ル志望閱歷共ニ十分ナル人物ヲ目下物色中ニ付決定次第日本政府ノ同意ヲ求ムル筈ナリト述べタルニ付本使ハ從來帝國政府ニ在ツテ歴代ノ内閣共此ノ大方針ニ最モ重ヲ置キ両國ノ親善良好ナル關係ヲ維持増進スルニ努メ来リタルハ勿論殊ニ現内閣ハ此ノ方針ノ達成ニ最善ノ努力ヲ致シツツアルハ十分既ニ御承知ノ事ト存ズルガ貴国新政府ニ於テ此際特ニ兩國邦交ヲ重視セラレ益々日支親善ノ方針ヲ執ラレ駐日公使ノ如キニ有力者ヲ任命セラレントスル議アルコトヲ承ルハ本使ノ欣幸トスル所ニシテ右ノ次第ヲ本國政府ニ報告セバ我政府ハ勿論國民一般ニ於テモ嚙カシ満足スベキコトト信ズ今後ハ兩國当局者ノ努力ニ依リ日支親善關係ヲ實際ニ現実セシメンコトハ本使ノ衷心切望スル所ナリト答ヘ置ケリ尚二十三日程秘書ガ西田ニ内話セル所ニ拠レバ駐日公使ノ候補者ハ種々アリタルモ最近胡惟德ニ内定シ目下同人ノ同意ヲ求メツツアル処略々承諾セリトノコトニ付不日決定スヘキ筈ナリ尚莊代理公使ハ曾

毓雋ノ姻戚ノ關係モ有ル故成ルベク速ニ之ヲ召還シ公使赴任迄不取敢王鴻年ヲ代理公使トシテ派遣スルコトナルヤモ計リ難シトノコトトナリシ趣ナリ

八二三 八月三十日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛

前駐華米國公使ラインシュヨリ靳總理ニ呈出セル建議書訳送ノ件

機密第三五〇号

(九月四日接受)

大正九年八月三十日

在支那

特命全權公使 小幡西吉(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿
前米國駐支公使ニシテ現ニ支那總統府政治高等顧問タル「ラインシュ」最近「支那時局ニ対スル建議書」ナルモノヲ靳總理ニ呈出シ且之ヲ漢字英字各新聞紙上ニ公表シ居レル次第ハ往電第九〇八号報告ノ通ニ有之候処該建議書ノ趣旨ハ主トシテ「國民制憲大会」ノ組織実行力支那目下ノ挽救策トシテ唯一ノ急務ナルコトヲ切言シタルモノナルモ同時ニ鐵道外國借款商埠増設等多方面ニ亘レル意見ヲモ吐露

時ニ鐵道外國借款商埠増設等多方面ニ亘レル意見ヲモ吐露

シ居リ間々之ニ依リテ支那ニ対スル米國側「ラインシュ」一派ノ意圖並其将来ノ企画如何ヲ窺見スルニ足ルモノナキニアラス而シテ前記「國民制憲大会」ニ関スル論議ノ如キハ吳佩孚等ノ主唱ニ係ル「國民大会」ト全ク符節相合スルカ如クナルノミナラス吳ニ対シテ大ニ崇讃ノ辞ヲ呈スルト共ニ失墜シタル段一派ニ対シ痛罵ヲ加ヘ居レルハ支那ニ於ケル俗間人氣ニ投セントスル米人等ノ用意ヲ見ルニ足ルヘク其他暗ニ日本ノ支那ニ対スル旧来ノ借款ヲ非難攻撃セル一節ノ如キ支那人側ニ対シ煽動的印象ヲ与フルノ傾向アルモノナルハ申ス迄モ無之要スルニ右「ラインシュ」ノ建議書ナルモノカ徐總統ヲ初メ支那ノ当路者及各省督軍等有力者間ニ如何ニ誦マルヘキヤ其之ニ対スル感想如何ハ寧ロ疑問ニ有之「ラインシュ」ノ下セル觀察ニ就テ之ヲ觀ルニ該建議書全篇ヲ通シ其未タ支那現下ノ真情ヲ究メ居ラサル点モ少ナカラサル様被認候茲ニ別紙該建議書訳文並英訳相添此段及報告候也

追テ本信ハ之ヲ機密トセルモ別紙訳文ハ勿論公表差支無之候間為念申添候也

註 英訳ヲ省略ス

書ニ臨ンデ屏營感愧ニ勝ヘス

一、当今支那政治ノ病根

支那ノ政治ハ今又一ノ危險ナル難関ヲ度リ新内閣茲ニ成立ヲ告ケタルモノナリ其執政政府ノ品性經驗ヲ以テスレハ将来大ニ國ノ内外ニ於ケル信任ノ念ヲ激發セシムルニ足ルモノアラン況ンヤ改造ノ重任ヲ己レノ任トセラルルヲヤ此事タルヤ政府ニ於テ欠クヘカラサルコトトセラルルノミナラス同時ニ全國ノ渴望スル所ナルヘキ也尤モ已ニ改造ト云フ以上吾人ニ於テモ必スヤ反躬自省シ目下ニ於テ政府全体ハ果シテ已ニ強國ノ基礎ヲ有シ居ルヤ否ヤヲ顧ミサルヘカラス一念之ニ及ヒ予ハ誠ニ心中危フム所ナキヲ得ス当今執政者ノ人格カ如何ニ崇高ナルニセヨ全國人民ノ心目中必スヤ今回ノ解決ヲ以テ健全ナリ又永久的ナリト認ムル能ハサルヘク是レ實ニ事ノ不幸ナルモノト謂フヘシ蓋シ根本上ヨリ着想シ政府ノ基本性質其物ヲ盤石ノ安キニ置キ他人ヲシテ疑問ヲ發セシムルノ隙ヲ授ケサルカ如クナスニ非ザレバ其改造ノ計画如何ヲ問ハス徒ニ空言ニ託スルニ終ランノミ近年來政客ノ私爭督軍ノ自利官吏ノ貪婪及ヒ公共ノ財源ヲ握リ國事ヲ改良スルヲ以テ念トナサス徒ニ野心ヲ發展スルニ利

(別紙)

支那ノ時局ニ対スル建議書(和訳文)

新國務總理宛書翰

前駐支米國公使「ラインシュ」

米國前駐支公使「ラインシュ」謹シテ一書ヲ中華民國國務總理閣下ニ呈ス鄙人ハ今ヤ貴國目下ノ政治狀態ニ鑒ミ謹シテ時局ニ対シテ建議スル所アリ希クハ貴内閣ニ於テ之ヲ採択セラレンコトヲ榮幸ニ勝ヘス鄙人ハ今回貴國ニ來リ感觸軋々重大ナルモノアリ謹ムテ目前急ニ設施セサルヘカラサル事項ノ要点ヲ略述シ其性質ノ在ル所ヲ貴内閣ノ前ニ陳明スル所アラントス是レ鄙人認メテ吾カ当然ノ責ニシテ言ナキ能ハサルモノトナス所ノモノナリ望ムラクハ貴内閣ニ於テ之ニ対シテ注意セラレ且郡倫ヲ領率シテ之ガ先導トナラレ國民運動大業ヲ助ケテ中夏ヲ再造スルノ宏基ヲ立テラレシコトヲ左スレバ貴内閣ニ取リテモ威ヲ取リ信ヲ立ツルノ効アルヘキヲ疑ハス惟フニ当今ノ要務ハ貴内閣ニ於テ速ニ國民制憲大会(People's Constitutional Convention)ヲ發動セシメラレ各方面ヨリ速ニ代表ヲ選ヒ會議ヲ開カシメラルヨリ急ナルハナシ時機ハ切迫セリ稍縱マハ即チ逝カン

用シタルコトノ為支那人民カ害ヲ受ケタルコト亦已ニ深シト云ハサルヘカラス支那人民ハ偉大ナル財源絶好ノ機會等カ其祖国ノ前ニ懸カリ当ニ急ニ發展ヲ計ルヘキ場合ナルヲ知ラサルニアラス只彼等ハ目ノアタリ一班ノ政客及手中ニ大權ヲ握レル者等カ此等大發展ノ計画ニ対シ毫モ増進スル所アル能ハサルノミナラズ却テ國家公共ノ物ヲ以テ個人間無益ノ争ニ供シツツアリ他人ナラバ之ヲ以テ富強ヲ致シ得ヘキニ支那ハ却テ之ニ因テ破産シツツアルノ現状ヲ觀ルノ外ナキモノナリ一念之ニ及ヒ誰カ痛心セサラン噫支那人民ノ害ヲ受クルヤ深シ矣

事實ハ昭然タリ支那人民タル者一切ノ計画ニ対シ若シ其政府ヲシテ代議制度ヲ恢復シテ以テ人民ノ保障トナサシムルコト能ハサランカ政府ニ対シ之ヲ信任スルノ余地ハ將ニ地ヲ私ハントス是レ事理ノ当然ナリ夫レ近代各國政府カ内ニハ統治ノ全權ヲ握リ而シテ外ニハ鄰邦ノ重視ヲ受クルヲ得ル所以ノモノハ其能ク國家全体ヲ代表シ得ルヲ以テ也此ノ資格タルヤ武力ヲ以テ之ヲ得ル能ハス舞弊ヲ以テ之ヲ得ル能ハス陰謀ヲ以テ之ヲ得ル能ハス全ク社會自由ノ付託ニヨリテ之ヲ得而シテ政府ハ法律ノ組織ニ適合シテ以テ其守ル

ヘキ職權ヲ行使シ間斷踰越等ノ事ナキヲ得ル次第ナリ曾テ偶偶軍備ヲ以テ自ラ恃ミタルモノアリ又財源ヲ以テ自ラ恃ミタル者アリ然レ共單タ之ヲ以テ國家統治權ノ強健ナル基礎ヲ構成セシメント欲セバ未ダ能ク失敗セサル者ハアラス是レ已ニ屢々其前例アリ故ニ之ヲ以テ國ヲ謀ラントスレバ徒ニ國家ヲシテ一回ノ危機ニ遇フ毎ニ更ニ一回ノ孱弱ヲ増スノミニシテ必スヤ終ニ全局土崩シ國ヲ挙ケテ破産ニ了リ國家主權ヲモ共ニ喪失スルニ了ランノミニナリ斯ル大厄ヲ脱セントスル惟一ノ途ハ忠誠正直以テ完全ニ之ヲ法律手続ト代議政治トニ歸セシムルニ在ル耳

近代國家統治權ノ終局の根源ハ民意ノ表現タル法律ヲ尊重スルニアリ若シ之ヲ顧ミス徒ニ個人ノ勢力一己ノ野心金錢ニ依ル陰謀武力ノ專制ヲ以テ認メテ統治權ノ所在トナサハ国内永ク和平ノ望ナキノミナラス國事ハ益敗壞シテ收拾スヘカサルニ至ラン故ニ吾輩苟モ斯ル現象ヲ免レント欲セハ当ニ公正無私ニシテ嚴ニ法律ヲ守リ一面個人ノ野心利益ヲ屏除シ他面法制ノ長久的の存在ヲ保持セサルヘカラス当今支那政府ノ致命的の欠陥ハ人民代表ノ國會ナキニ在リ人民ノ代表機關欠乏スレハ名実符セサルノ政府爰ニ發生シ百孔千

何時タルヲ問ハス該國人民ニ於テ正當ニ之ヲ否認シ得ルノ余地アルヘキニ因ルモノナリ

ハ 國際關係ハ當今已ニ甚タ複雑ヲ極メ居リ一國政府ニ於テ何等ノ舉措アルニ際シ其本国内自身ニ信用ヲ得ル能ハサル以上信用他國ニ得ル能ハサルハ勿論ナルヘク解決方法良善ナリトスルモ信用備ハラサレバ亦如何トモ為シ難カルヘシ況ンヤ偶々他國ニ對シ讓歩スルカ如キ事アルニ當リ全國ノ信任セル代議機關アリテ之ニ對シ円満ナル解釈ヲ与ヘ得ルニアラサレバ國民ノ政府ニ對スル關係ニ於テ永ク諒解ノ日ナカルヘキノミナラス益々疑慮ノ念ヲ増サシムヘク即チ其國家生存ノ權ニ就テスラ盜売ノ患アルヲ憂フルニ至ルヘシ夫レ一國ノ人心ニシテ此ノ如クナルニ至リ斯ル國ト他國トノ國際關係ヲシテ重要ナル發展アラシメ円満ナル解決ヲ得セシメントスルカ如キハ是レ誠ニ不可能ノ事ナリトス要スルニ之ヲ能クセシメントスルニハ只主權ノ託スル所タル健全有力ナル國會ヲシテ不斷ニ存在シテ職權ヲ行使スルコトヲ得セシムルニアル耳

仍ホ以上ノ主張ニ関シ更ニ簡明ナル解釈ヲ下サンニ支那政府歷年病弊ノ在ル所ハ其徒ニ共和國ノ虛名ヲ負フノミニシ

瘡東支西細事毎ニ敷衍ノ計ニ出テ國ヲ図ルニ根本ノ計図ナシ是レ蓋シ法律上已ニ強固ナル根基ナクシテ而シテ國民間ニ一致的の贊助ナキニ由レルモノナリ斯ル不利ナル現象ニ就キ茲ニ更ニ三項ニ分チテ之ヲ述フベシ

イ 一國ニ其國全体ガ民意ヲ代表セルモノト公認シタル國會ノ存在ナケレバ即チ各國カ之ト接洽スルハ只事實上認メテ此物アリト為スニ過キズ云ハバ臨時的非公式ノ關係タルニ過キス苟モ一旦国内ノ統治權ニ變動アレバ則チ一切承認協商ノ事ハ隨時ニ均シク之ヲ取消スヲ得ヘシ此ノ如キ政府ハ当然生命常ナク人ノ鼻息ヲ仰クノ地位ニ立タサルヘカラス又当然獨立安全ノ樂ヲ享クルコト各大國ヲ代表セル真正政府ノ如クナル能ハサルナリ

ロ 斯ル狀況ニシテ永キニ亘ランカ政府ノ財政基礎ハ必スヤ強健ナリ難ク又其政府ニ於テ正當ナル稅則ヲ實行シ全國經濟上ノ補助ヲ得ント欲スルモ人民ヲ代表スル機關存在スルニ非ザレバ不可ナルハ勿論他國政府トシテモ基礎完カラサル政府ニ對シ借款ヲ為サントスル者ニ就キ敢テ正當ト認メテ之カ拡充ヲ允スカ如キモノアラサルヘシ是レ斯ル負債國民ノ代表カ未タ参与シタルコトナキ政府ノ舉動ハ將來

テ不斷連續のニ全体人民ヲ代表スルノ國會ナキ一事ニ在リ元來人民ノ公意アル以上必ス正式ニ之ヲ表現スヘキ機關ナカルヘカラス此義タルヤ實ニ近代政治ノ原素タルモノニシテ若シ之ヲ備ヘザレバ其國家ノ致命的の弱点タルヘキハ疑ヲ容レズ即チ外交關係ヲ以テ論センニ各國ハ憲法の原質ヲ欠如セル政府ニ對シテハ其承認スル所ハ只事實上斯ル政府アルヲ知ルト云フニ過キス正式ニアラス永久的のニアラズ國際事務ニ就キ接洽ノ必要生シタル場合ニ已ムヲ得シテ茲ニ出ツルニ過キズ便宜の措置ニ止マリ何等ノ保障ヲ含マス何等ノ贊助ヲ意味セス何時タリトモ承認撤回ヲ欲セバ之ヲ撤回スルニ差支ナク其權固ヨリ各國ノ手中ニ在ツテ操縦自在タラン公共統治權ノ依テ生スル所ハ要スルニ武力習慣公意ノ三種ニ外ナラス而シテ統治權ヲ武力ニ託セバ其武力ナルモノハ變遷常ナク統治ノ基礎ハ定マラサルヘシ然ラハ之ヲ習慣ニ託センカ是レ昔時ノ家族制度ト相同シキモノニシテ支那當年君主時代ニ於テ之ヲ實行シタルコト已ニ久シ豈再ヒ之ヲ近代ニ適用シ得ヘケンヤ果シテ然ラハ近代國家統治權ノ摠託スヘキ所ハ惟タ各方面ニ於テ承認シ各方面ニ於テ歸附セル所タル法律制度中ヨリ得來ルヘキ代表の公意アル

ノミナリ是ニ於テカ公意代表の機關ハ当然近代國家ノ要素ヲ成スモノニシテ苟モ代議団体ナクンバ完備セル近代國家ナリト云フヲ得サルナリ

此種ノ団体存セサレバ政府ハ至ル處其弱点ヲ暴露シ且其能力ヲ減少スヘク又國際間ノ承認協商ヲシテ皆臨時的非公式的トナラシムルノミナラズ政府自身ノ財政ヲシテ亦強固ナル基礎ナカラシムルヘク斯ノ如キ狀態ノ下ニ於テ國內ニ於テ經濟上ノ援助ヲ得ル能ハサルハ云フ迄モナク國外關係ニ就テ云フモ外國ノ政府及資本家ニシテ苟モ公正無私ナル以上豈組織不完全ナル政府ト長久渝ラサル條約ヲ訂スルモノアラシヤ況ンヤ此等ノ條約タル大凡ハ支那全体ノ福利ノ為ニセルニ非サルヲヤ而シテ支那人民ニ於テハ毫モ此等ノ契約カ自己ト關係アルヲ承認シタルモノニアラズ只今日政權ヲ擁有セル者ニ於テ任意ニ執行シテ顧忌スル所ナキニ過キズ他日永久の効力ヲ發生シタル場合ニ於テ各方面ノ之ニ牽連セル者其痛苦ヲ蒙ラザルハナカルヘク是レ負債國側ノミ獨リ此ノ如クナルヘキノミナラズ即チ貸款國ニ取りテモ亦未ダ其利ヲ見サルベキナリ

一國政府ニシテ苟モ其本國人民ノ補助ヲ得ル能ハザレバ國

ハ大法ヲ確定シ之ヲ守リテ渝ルコトナク米國ノ前型ニ歩シ之ヲ中斷セシメサルニ在リ若シ此事ニシテ行ハレサランカ他ハ道フニ及ハザルナリ今日支那ノ憲法上ニ規定セラレタル立法權カ已ニ多少停頓ノ歴史ヲ有セルコトハ必スシモ之ヲ掩フニ及ハス而シテ之ニヨリテ生シタル結果ニ至ツテハ坐ナガラニシテ國ノ内外ノ信用ヲ全ク失墜セシメ而シテ政府ヲシテ亦愁境ニ陥ラシメタルモノニシテ今後弦ヲ改メテ更張シ以テ信用ヲ恢復セント欲セバ陰謀ヲ去リ積弊ヲ去リ武力ヲ去リ人の政府ヲ去リ而シテ法の政府ヲ建設スルニア

ルノミ

二、實際ノ解決方法

吾人ハ已ニ時局ノ詳情ニ関シ内析的ニ考察ヲ下シタリ然ラハ法律ノ主張ニ按シテ支那時局ノ円滿解決ヲ計リ以テ緊急ノ需要ニ応センガ為ニハ如何ニセバ可ナラン歟此事タル之ニ對スル円滿ナル解答ヲ得ルコト寧ろ容易ナラサルカ如シ

千九百十二年ノ臨時約法ハ現在政府力遵循スヘキ所ナリト雖モ而モ此種約法ノ本身タル諸レヲ永久ニ垂ルルヲ望ミ得ヘキモノニアラスシテ寧ろ別ニ根本的大法アリ起ツテ之ニ

内ヲ統治スル主權ナキガ如キモノニシテ他國ノ扶持ヲ希望スルモ至難ノコトニ屬セリ其補助ヲ得ント欲スル場合唯一ノ方法トシテ人民ノ公意ヲ代表セル國會ヲシテ存在セシムルニアルノミ而シテ國會ノ重要ナル理由ニ至ツテハ更ニ之アリ即チ近代國家統治權ニ関シ其最モ強固ナル根柢トセラ

ルハ立法ナリトス立法トハ憲法ノ規定ヲシテ不斷ノ効用アラシメ暴力モ犯スコト能ハス私權ヲ以テモ犯スコト能ハス少数者ノ無限ノ威權ニ依リ大法中斷セララルノ危懼アラシメサル所以ヲ指スモノニシテ政府タルモノニ於テ苟モ内

外ノ信仰心ヲ博セント欲スレバ國家ノ為ニ此種ノ立法制度

ヲ保全スルニ非サレバ不可ナリ米國ノ共和政體ハ其成立百

五十年以來常ニ立法ヲ以テ統治權ノ基礎トナササルナク而

シテ此期間内ニ在ツテ憲法ハ未ダ嘗テ一回モ中斷シタルコ

トアラズ其修正ノ如キモ亦大多數國民公意ノ要求ニ出テ須

ラク法律上規定ノ手續ヲ履ムヲ要スヘキモノニシテ大ニ之

ヲ鄭重ニスルモノナルコト推シテ知ルヘキナリ從ツテ國ヲ

挙テ認メテ公平正義ナリトシ而シテ一致服從ニ甘心セルモ

ノ故ナキニアラサルナリ今ヤ中華民國ニシテ苟モ内ニハ國

内ノ實權ヲ享ケ外ニハ鄰邦ノ重視ヲ受ケント欲スルニ於テ

代ランコトヲ希望シタルモノナリ然ルニ其後種々阻礙的原

因アリシニ因リ右根本的大法產出スル能ハサルノ結果トナ

レリ尚其後ニ及ヒ新ラシキ者トシテハ法律ニ超然タル國會

(新國會)アルニ至リ又以前ノ者トシテハ遷徙常ナク分離

崩析シ去リタル國會(舊國會)アリ斯クシテ支那ノ立法關

係ハ遂ニ益々紛擾シテ解決シ得ヘカラサルニ至レリ矣法律

ニ超乎タル新國會ハ固ヨリ問題トナラス分離崩析シタル旧

國會ト雖モ其法律根柢ニ就キ之ヲ論究セバ亦徒ニ其分離崩

析ヲ増スノミナラン

一切立法ノ基本ハ公共ノ民意力能ク秩序のニ表現セラルルコトニ在リ故ニ現下支那ノ情勢ニ就テ論スレバ苟モ時局ヲ解決セント欲セハ則チ理論上ニ於テ当然國民會議ヲ召集シテ意見ヲ徵求スヘキモノナルノミナラス事實上ニ於テモ亦之ヲ捨テテ他ニ方法ナカルヘシ只此種ノ會議ヲ召集スルニ當リテハ須ラク已ニ存在セル団体ヲ根柢トスヘシ然ラサレバ全國ニ於テ選舉ノ為ナリトシテ組織スル新団体ハ必ス春

菌ノ暴力ニ発セルカ如ク之ニ參加セント試ムヘク其性質タル想見ニ難カラズ然ルニ已ニ存在セル団体即チ商會工會教

育會及各省々議會等ノ如キハ是レ支那ノ真正ナル統治權ノ

属スル所ニシテ此等ノ団体コソ支那政府ニ付託スルニ全国ヲ代表スルノ權ヲ以テスルヲ得ヘク此種ノ權利ハ目下ノ支那政府ハ尚未タ之ヲ取得シ居ラサルナリ

若シ此種大憲法會議ヲ召集スルコトアルモ上述シタル所ノ要義ヲ離ルルニ於テハ是レ不良ノ分子ヲ鼓勵シテ而シテ真正ナル代表ヲ求メサルニ異ナラサルモノナリ支那ノ工、商、学、各界ノ団体ハ皆早ク已ニ成立シ且ツ甚タ活動シ居レリ殊ニ彼等ハ各々職業ヲ有シ国事ニ対シテ常ニ切膚ノ痛癢アリ断シテ一般ノ無關係者流若クハ他人ノ買収ニ任スカ如キ選舉民ノ如ク獵官連中ニ利用シ去ラルルモノナカルヘク事理十分ニシテ予料ニ難シトセサルナリ吾人ニ於テ果シテ支那ニ真正ナル国民代表ノ發現ヲ欲スル者ナル以上現在已存ノ工商學團體以外ニ於テ他ノ適當ナル組織ニ在ルモノヲ求メ難ク況ンヤ今日トナリテハ国事ノ重要ナルコトニ就テハ支那人モ已ニ充分之ヲ知レルノミナラズ人民中ニ於テ無職業ニシテ工商學界ノ分子ニ非サル者ハ真正ナル国民ノ代表タル能ハサルコトヲ公認シ以テ國家ノ權利ヲ保障スルコトト為スヲ得ヘキナリ斯ク觀シ来レバ此種団体ヨリ生シ来ル立法機關ハ勢力ナシト謂フヘカラズ而シテ其性質モ又

實際ト相近ク決シテ空言ニ涉リ実益ナキニ終ルカ如キコトナカルヘシ況ンヤ職業者方面ノ代表ニ属スル以上将来立法ノ際ニ於テモ行政範圍ニ属セル職權ニ就キ断シテ越俎干涉シ侵越ヲ企ツルカ如キコトナカルヘク即チ此点ハ政府ニ於テ必スシモ考慮スルノ必要ナシ此種機關ハ将来必ス支那人民ノ為最モ有力ナル發言代表トナルヘク而シテ其唯一ノ職務ハ憲法及国会選舉法ヲ制定シ政府ノ各部分ヲシテ悉ク法律基礎ノ上ニ建設セシムルニ在リ斯ノ如クナルヲ得テ始メテ支那ノ政治ハ茲ニ正當ナル軌道アルモノト云フヲ得ヘク而シテ支那ノ獨立其主權モ乃チ確實ナル保障アルニ至ルヘシ尤モ此種ノ「國民制憲大會」(The People's Constitutional Convention) ヲシテ精悍有為ナラシメントスルニハ諸団体ハ余リ大ニ過クルニ及ハス最モ注意スヘキコトハ品格ノ選擧ニ在リ人数ノ衆多ナルヲ要セサルコトニシテ各省ヨリ代表トシテ擧ケ来ル所ノ者六人乃至十人位ヲ最モ宜シトスヘシ此重要時期ニ當リ全國ノ重要団体ヲ以テ此重要會議ヲ推選スルコトハ其事自身已ニ全國ノ興味ヲ喚起シ挙國人民ヲシテ之ヨリシテ全國政府ト自己トノ利害關係ヲ覺悟セシムルニ足ルヘク即チ「國民制憲大會」ノ貢獻スル所

ハ已ニ國家ノ存亡ニ関スト云フヲ得ヘク其他ハ問ハスシテ可ナリ但シ予ハ茲ニ為念一言セサルヘカラサルコトアリ此種大會ヲ召集スルニ際シ臨時ニ添設スルカ如キ選舉團體等ニ對シ万一開放政策ヲ執リ之ヲ許可スルコトアランカ其害ヲ遺スコト大ニシテ遂ニ致命的の患害ヲ成スノ虞アリ目下支那人民ノ代表ハ只之ヲ既存團體中ニ求ムルヲ可トスヘク是レ其統治ノ實權ト代表ノ資格トヲ有セルニ因レリ然ルニ若シ此等ノ団体ニ拠ラサルコトスレハ該大會ナルモノノ威權ハ必ス空泛ニ歸スヘキナリ是レ威權ナルモノハ無ヨリ有ヲ生スルカ如キモノニアラス必スヤ之カ授受ノ機關ナキヲ得サレバナリ故ニ今日ニ於テハ当然既存ノ機關ヲ以テ根拠トナシテ「國民制憲大會」ヲ召集シ此ニ得タル憲法ヨリ正式國會ヲ選舉組成スヘキナリ而シテ将来正式國會ノ選舉中ニ於テモ亦既存ノ機關ヲ利用シ其代表關係ヲシテ只選舉投票ノ區域ヲ代表セシムルニ止マラス之カ代表者等(議員)ヲシテ農工商學界各方面ノ利益ヲモ代表セシムルコトトスヘシ是レ近代所謂「代表利權」(Representation of Interests)ノ學說ニシテ是レ当今世界政治ノ潮流ナリトス将来此義ヲ根拠トシテ召集シタル國會ハ支那ノ大局ニ對シテモ

已ニ經驗アリ又人民自身ノ側ニ就テモ休戚相關セルヲ以テ自ラ其全力ヲ尽シ以テ純粹ナル立法機關タルヲ得ヘシ而シテ大政ノ方針ハ概シテ政府ヨリ建議シ苟モ國會ノ贊助ヲ得レハ其推行上何等阻撓ナカルヘク行政職權内ノ事ニ関シテハ國會モ亦断シテ職權ヲ篡奪シ有用ナル精力ヲ無意義ナル個人攻撃ニ費スカ如キコトアルニ至ラザルベシ

若シ現在ノ政府ニシテ全國ノ要求ニ応シテ代議ノ機關ヲ召集スル能ハサレバ其改造ニ関スル政策如何ニ偉大誠摯ナルヲ問ハス必スヤ全國信任ヲ得ル能ハサルヘシ即チ支那政府カ全國々民ニ政治ニ参与スルヲ允スノ誠意アルヤ否ヤハ此一事ニ依テ見ルヲ得ヘク又支那政府カ果シテ集思広益ノ虚懷ヲ有スルヤ否ヤモ亦之ニ依テ窺ヒ得ヘシ
要スルニ此事ニシテ実行シ得サレハ是レ支那ヲ絶望ノ地ニ陷ルルニ異ナラス其結果政府トシテ内外ノ補助ヲ得ル能ハサルハ尚小事ナリトスヘキモ斯ル情況ニシテ繼續スルコトアランカ支那政府ノ覆亡ヲ見ルヘキハ事實上免レ難キ所ナルベシ此一變千鈞ノ際ニ當リ苟クモ政事家中身ヲ挺シテ出ル者アリ國民ノ需要ニ順カヒ立法ノ機關ヲ立ツレハ救國ノ業ハ之ヲ無窮ニ垂レ國民ハ世々永ク其恵ヲ食マン然ルニ若

シ之ニ反セハ則チ身命敗辱羞ヲ後世ニ遺シ野心アル者私利ヲ図ル者無価値ノ者ト称セラレ而モ其祖国ヲ覆亡ニ陥ルルヲ顧ミサリシ者トセラルヘク千秋万世自ラ公論アルヘキ也

三、憲法ノ性質

学理上憲法ノ性質ニ関スル討論ハ多シ只支那ノ利便ノ為ニ考フルニ憲法ニハ最も簡單ニシテ実行シ得ヘキ立国ノ大法ヲ規定スルヲ最も善シトスヘシ即チ根本的要点ヲ列シ煩瑣ナル条文ヲ置カス單タ代議機關ノ存在ヲ保障スルニ堪ヘシメ政府ヲシテ重大事件アルニ當リ隨時ニ其同意ヲ得ルノ必要アラシムルヲ以テ足レリトスベク而シテ其余ノ煩瑣ナル事項ニ至ツテハ行政機關ニ在ツテ各其經驗ヲ有セル長官ヲシテ事宜ニ応シ得ルノ余地ヲ有セシムルコトトスレバ自ラ実行ニ易キヲ覺エ牽掣ヲ免ルルヲ得ヘキナリ若シ支那ニシテ他ノ同シカラサル国家ニ模倣シテ束縛甚タ嚴ナル憲法ヲ定メント試ムルカ如キカ是レ觀察錯誤ノ致ス所ナラスンバアラス

支那ニ於テ至高ナル中央集權の政府ヲ建設セント主張スルハ是亦錯誤ニ屬セリ何トナレハ支那ノ省区ナルモノニ就キ

發達ヲナスヘキヤハ目下ニ於テ衆人ノ夢想ニタモ及ハサル所ナリト雖モ何レニセヨ此等商港ヲ籌備スルノ挙カ極メテ重要ナルコトハ看過スヘキニ非サルナリ支那政府ニ於テ此種緩忽ヲ許ササル国家ノ大政ヲ挙行スルノ誠意アルニ於テハ之ニ就テモ須ラク先ツ全国ヲ代表スル国会ノ存在ヲ必要トスベク而シテ一切ノ条件ヲシテ法律上ノ根拠有ラシムルコトト為シ得ベキナリ若シ然ラズシテ財政上相當ノ補助ヲ得ント欲スルモ是レ事實上不可能ノ事ナルヘシ国家ノ大体上ヨリ着眼シテ之ヲ考フルニ支那ノ法律制度ヲ速ニ釐訂スルコトモ亦極メテ重要ナル事項ナリトス共和国ニ在リテハ当然適宜ノ機關完備セル法律アリ以テ個人ノ自由侵犯ニ對スル保障タラサルヘカラス故ニ個人ノ權利例ヘバ生存權、自由權、享受權等ノ如キ一面ニ於テ固ヨリ人民共同ノ維護ニ依ルヘキモノナルモ他面ニ於テ又合法ナル国会カ真正ナル權力ヲ擁シテ之カ屏藩タルノ作用ナカルヘカラス若シ此等ノ制度ニシテ定マラサレバ支那ハ各国間ニ伍シテ自ラ獨立ノ地位ヲ佔ムル能ハサルヘク治外法權ノ如キモ亦之カ裁撤ノ望ナカルヘキナリ

支那政府ニ於テ公平ナル制度ヲ以テ各部分ノ爭端ヲ解決シ

經驗上、慣習上並ニ土地ノ面積上ヨリ合セテ之ヲ觀察スルニ一トシテ政府トシテ通常任務ヲ実行スルニ足ルコトヲ証セサルモノナシ故ニ支那政府ハ宜シク聯邦ノ意義ヲ採用シ各省ヲシテ各自治ノ權アラシメ各其本地ノ需求ニ按シテ以テ其政制ノ適応ヲ籌画セシムヘキナリ但シ全国一般ニ亘ル重要問題例ヘバ外交、国防、郵政、幣制等ノ事ハ固ヨリ中央政府ノ代表ニ於テ之ヲ処理スヘキハ勿論ナリ

目下支那政府ニ於テ已ニ管理シ居レル職權中ニ就キ最も重キ二個ノ点アリ右ハ将来ニ於テモ中央ニ於テ先ツ之ヲ籌画シ充分ニ研究ヲ遂ケタル上ニテ各省ヲシテ夫々詳細ニ執行セシムヘキモノナリ是レ他ナラズ交通及司法ナリ当今ニ於テ支那全体人民ノ福利ヲ増進セント欲セバ速ニ鐵道ノ幹線ト自動車ヲ通シ得ルノ馬路トヲ建設スルニアラサレバ不可ナリ而シテ支那ハ第一ニ外資ヲ利用シテ此舉ニ從事スベシ左スレバ十年以内ニ二万「マイル」ノ鐵道ト二万「マイル」ノ馬路トヲ敷設スルコトハ實ニ可能ノ事ニ屬セリ此事ニシテ実行セラレンカ支那ノ富源ハ少クモ三倍ヲ増シ得ヘシ尚此以外ニ於テ須ラク多ク適宜ナル商港ヲ闢キテ國際貿易ニ便利ナラシムルヘシ此種貿易力ヲ将来ニ於テ果シテ如何程ノ

全國鐵道ノ敷設ニ從事シ個人事業ノ保護ニツキ人民生存ノ權ヲシテ正當ノ寄託アルヲ得セシメラルルニ於テハ各方面共ニ喜ンテ之ヲ援助セサル者アラサルヘキ鐵道、馬路ト法律ノ保障トハ事極メテ簡單ニシテ人民其恵ヲ受クルニ易シ是レ政府ノ當ニ尽力スヘキコトナリ

從來支那人民ノ經濟狀況支那政府財政狀態等ハ殊ニ確實ナル記錄材料ヲ得難シ故ニ支那政府ニ取リ此際一ノ極メテ重要且ツ極メテ有益ナル事アリ即チ全國ノ經濟財政ヲ調査スヘキ一機關ヲ設立スルコトニシテ若シ此事ニシテ実行セラレンカ支那ノ信用ハ顯著トナリ支那ノ進歩モ期シ得ヘシ然ラバ何カ故ニ此機關ニ言及スルヤ他ナシ支那ノ有ラユル事業ハ徹底的ニ科學的調査ヲ經テ始メテ着手スルヲ得ヘキヲ以テナリ若シ然ラスシテ徒ラニ泛々トシテ談スルモ信ヲ世界ニ得ルコト能ハサルヘシ尚此事タル省政府ノ能力及ハサル所ナルヲ以テ中央政府之ヲ行フヘキモノトス教育ヲ發展セシムル亦最重要ニ屬スルハ多言ヲ要セス但シ目下ノ政策ハ總統採用シテ可ナルニ似タリ教育事業各省ニ關スルモノハ先ツ各省ヲシテ自ラ籌画セシムヘク中央政府ニ於テハ教育方針ヲ明定シテ其進行ヲ助クヘキノミ各省ニ大学ヲ添設

スルコトモ亦目下ノ必要ニシテ全国ノ切望セル所ナルヘシ

四、結論

今日ニ際シ支那政府カ苟モ代議性質ニ基キ其改組ヲ行フコトヲ能クセバ内ニハ信ヲ国民ニ博シ外ニハ好ミヲ友邦ニ見ルヘク誠ニ千歳一時ノ機会ナリ況ンヤ当今支那ノ工商階級中ニハ近代的教育ヲ受ケタルモノニシテ之カ領袖タルモノモアリ国事ニ対シテ無限ノ興趣ヲ有シ居レリ此興趣こそノニ依リテ挙国一致ノ行動ヲ造成セシメ得ルニ足ルモノニシテ支那將來ノ福利支那ノ實力ハ皆茲ニ伏在セリ然レトモ此ノ勢力アル団体ハ政府ノ空談的計畫虚擬の方針ニ対シ遽カニ満足ヲ表スルモノニ非スシテ政府側ニ於ケル實際ノ表現アリテ始メテ挙国ノ人心ヲ服セシムルヲ得ヘシ從テ政府ハ若シ人民代表参政ノ權ヲ蔑視シ立法ニ問ハズ民意ニ問ハズ而モ尚全国輿論ノ贊助ヲ得ムト欲スルコトアルモ是レ全ク不可能ノコトナリ又政府ニ於テ単ニ口頭ノ磋商ヲ以テ全国ノ了解ヲ得ント欲スルハ是レ徒ニ全国ノ苦痛ヲ増サシムル時機タランノミ当今領袖中已ニ一人ニシテ能ク立法事業ヲ建議シタル者アリ(註、吳佩孚ヲ云フカ)而シテ此人ノ誠

ニ至レリ前大統領袁世凱ノ勢力ト才能トヲ以テスルモ尚以テ全国ノ進歩ヲ圧制シテ帝制ニ復歸セシムルニ足ラス又張勳ノ復辟ノ如キモ無効ニ了リタルハ是之前者ノ鑑トナスベシ支那人民カ如何ニ守旧のナルニセヨ今ノ時代ニ及ヒ断シテ過去ノ制度ニ還ラシムルノ理ナキナリ最近ニ於テハ亦武力ヲ挾シテ政權ヲ攘ヒ外債ヲ藉リテ以テ其怒ヲ充タシタル者アリ而モ衆怒ノ歸スル所一週日ナラズシテ天怒人怨ハ終ニ之ヲ土崩瓦解ニ歸セシメタリ

以上所述ノ各事ニ依リテ之ヲ觀ルモ一トシテ成功ヲ告ケタルモノナシ支那人民ハ種々ノ試験種々ノ失望ヲ受ケタリト雖モ而モ一念最後ノ勝利ノ歸スル所ニ及ババ氣ヲ吐イテ自ラ豪トスルニ足ルモノナクシバ非ズ政治上ノ陰謀武人ノ勢力ヲ以テ前ニ論スル所ト比較セバ其優劣以テ見ルヘキナリテ揚子江ヲ壅カントスルニ異ナラス彼ノ浩浩蕩蕩タル洪流ハ或ハ片刻ノ間ノミ抑止スルヲ得ヘケンモ而モ其結果ハ兩岸横溢堤モ亦存セサルニ至ラザレバ已マス安ソ其圧制ノ効ヲ見ルモノナランヤ今や支那人民カ代議制度ノ潮流ニ趨向シツツアルハ猶此水ノ如キモノナリ瞬息ノ間或ハ圧制ヲ

樸公ケノ為ニセルモノナルコトハ又事実ノ証スヘキモノアリ是ニ於テカ全国ノ人心靡然トシテ之ニ從ヘリ政府若シ勢ニ因リテ之ヲ利導スルコトヲ能クセハ挙国ハ当然一切政治上ノ意見ヲ犧牲トシテ再ヒ統一ニ歸スヘシ然ルニ若シ政府ニ於テ時勢ヲ明ニセス賢然トシテ之ヲ拒絕セハ此偉大ナル国民運動ナルモノハ決シテ寂寞ニ甘心シ去ルヘキモノニアラス而シテ必スヤ同種ノ効果発生ヲ見ルニ至ラム今ノ世ニ処シ誠ニ平民政治運動ヲ圧制シ得ルニ足ルノ勢力ナルモノ有ル筈ナキ也

愚昧ヤ舞弊ヤ營私ヤ此内一アラハ以テ此種ノ運動ヲ圧迫シ得ルナラン然レトモ斯ル圧迫ノ力強ケレバ国家ハ必ス其大害ヲ蒙リ甚ダシキハ其独立ノ資格ヲ喪失スルニ至リテ後已マンノミ彼賢明ナル政治家ニシテ始メテ此大厄ヲ避クルコトヲ能クシ而シテ国家生命繫カル所タル健康の進歩の勢力ト相連合スルコトヲ為シ得ヘシ要スルニ此勢力ノミ独リ政府ニ与フルニ實力ト威嚴トヲ与フルノ力アルモノト謂ハサルヘカラス

近年支那ノ歷史上ヨリ与ヘラレタル一大教訓アリ為ニ個人ノ野心政治の陰謀ハ全ク無用ニ歸スルモノナルヲ立証スル

蒙リ憂患失望相繼テ来ルコトアランモ而モ最後ノ勝利何レニ属スヘキヤハ自ラ想見ニ難カラス賢明ナル政治家ハ当ニ自家ヲ以テ新趨向ト相連結セシメ確乎トシテ四圍ニ揺カサレス而シテ法律上ノ勢力ヲ培養スヘキナリ爾スレバ彼ノ個人ノ陰謀ヲ藉リテ以テ位ヲ窃マントスル者ノ如キ自ラ之ト比擬スル能ハサルヘク之ヲ近來經驗上ニ得タル教訓ニ徴スルモ斯ノ義更ニ昭然タルモノアリ之ヲ忽ニスルハ誠ニ盲目者流ナラン(終)

八二四 九月四日

在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国南北和議ノ成否ハ陳炯明広東進撃ノ成敗ニ懸リ且其進撃ノ成功ハ中国ニ大擾乱ヲ捲キ起ス切掛ト為リ得ベキ旨報告ノ件

第九三四号

(九月五日接受)

九月三日坂西少将ガ南北和議問題ニ関シ斬総理ヨリ聞キ得タル所ニ依レバ陸榮廷、岑春煊方面トハ双方ノ意見殆ド一致シ最早ヤ条件結了何時ニテモ和議成立発表ノ段取迄進ミ居ルモ恰モ陳炯明軍広東侵入ノ挙アリ為メニ鮮カラズ形勢ニ変化ヲ来シ目下該方面ニ於ケル形勢ノ推移如何ヲ俟チツ

ツアル次第ナリ雲南ノ唐繼堯トハ未ダ意見ノ一致ヲ見ズ目下同人ハ四川方面ニ事ヲ構ヘ其ノ勢力範圍擴張ニ腐心シツツアルモ四川現在ノ情況ニテハ到底唐ノ目的達成ハ疑ハシク旁々政府ヨリハ先以テ陸榮廷方面ト和議ヲ整ヘタル上唐繼堯ニ対シ雲南、貴州ヲ其ノ勢力区域ト認メ其ノ地位ヲ保証シ和議ニ同意セシムル考案ヲ有スル趣ナル由ナリ右斬ノ談話ハ和議問題目下ノ成行ヲ極メテ簡明ニ説明セルモノニシテ本官ノ觀測スル所ト全然一致セリ是ヲ要スルニ南北和議ノ成否ハ一ニ懸ツテ陳炯明ノ進撃ガ成功スルヤ否ヤニ存スルモノト觀察セラル併シ陳炯明ノ成功如何ハ独リ南北統一ノ成否ニ重大ノ關係アルノミナラズ其ノ成功ハ終ニ浙江、福建、広東、雲南、貴州、四川ノ一部及湖南聯盟ノ機會ト爲リ更ニ広西ノ進撃ヲ促シ別ニ湖南ヨリ湖北ヲ追撃シ陝西山西等今回政変ニ失意ノ地位ニ陥レル兩省ニ連衡スルノ機運ヲ来ス無キヤト察セラレ万一將來形勢ノ推移ガ右ノ如キ變革ヲ促スニ到ラバ支那ハ再ビ甚大ノ擾乱ヲ見ルニ到ランカト憂慮セラル広東方面ニ於ケル戦争ハ以上ノ意味ニ於テ頗ル重視スベキ事件ナリト史料ス

在広東總領事ニ転電セリ

次第該地ニ引上ゲ徐ロニ其ノ軍隊ノ教練ニ努力スル積リナリト語リタル由ナリ猶西カ右会见ニ於テ得タル印象ニ依レバ吳佩孚（当年四十七歳）ハ漢学ノ素養深キ割合ニ政治ニ関スル趣味ナキガ如クナルモ意志飽ク迄強ク一度思ヒ立チタルコトハ断行セザレバ止マザルノ概アリ保定時代ニ段祺瑞ニ接スルノ思ヒアリ兎モ角一ト癖アル純武人肌ノ人物ナリト認メタル趣ニテ彼ガ少壮有爲ノ人材ヲ拉致シテ其ノ用ヲ爲サシムルニ留意シ精勵力行部下ハ勿論地方人民一般ノ尊信ヲ得居ル等ヨリ察スルニ將來或ハ相当ニ頭ヲ持上グルニ至ラザルヤトノコトナリ序ナガラ新聞ノ報道ニ依レバ吳佩孚、馮玉祥ノ發起ニテ河南省鄭州ニ於テ王承斌、李奎元、蕭耀南等少壯軍人ノ會議アリ何等申合セヲ爲シタルノ趣ノ処其詳細ノ事情ハ未ダ明カナラザルモ之ヲ事実トスレバ吳佩孚等ハ之等軍人ヲ結束シテ將來ノ地盤ト爲スノ底意ト見ルノ外ナク兎モ角一応注意スベキ事項ト認メラル

天津、上海、漢口、南京へ郵送セリ

（奉天中継九月五日前三、三〇）

八二六

九月四日

在上海山崎總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

在上海總領事漢口總領事南京領事天津總領事濟南總領事奉天總領事吉林總領事へ郵送セリ

八二五 九月四日

在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

寺西大佐保定ニ赴キ吳佩孚ト会谈シ其印象ヲ小幡公使ニ談話ノ件

第九三六号

（九月五日接受）

去ル二日保定ニ赴キ吳佩孚ト会见シ歸京シタル寺西大佐ガ本使ニ語ル所ニ依レバ全大佐ハ吳ノ許ニ於テ種々優遇ヲ受ケ長時間ノ会谈ヲ爲シタルモ政治問題其ノ他吳ノ將來ノ立場等ニ関シテハ固ク口ヲ緘シ明言ヲ避ケ甚ダ要領ヲ得ザリシモ只国民大会ニ就テハ何処迄モ之ガ達成ヲ期セントスルガ如キ熱度ヲ有スルヤ否ヤ疑ハレタル位ニテ彼ハ支那ノ國家アリテ法無キヲ痛歎シ民国以來殆ド寧日ナキ紛擾ノ原因ヲ法ナキニ帰シ此ノ國家ノ大法ヲ制定スルハ国民大会ニ依ルヲ便宜トス然シ他ニ之ヲ実行シ得ルノ方法アラバ必ズシモ国民大会ニ執着スル次第ニアラズト言ヒ又北京保定地方ハ繁華ニ過ギ兵ヲ置クノ地ニアラザルガ故ニ其ノ部下ノ軍隊ノ全部ハ既ニ洛陽ニ移シ彼自身モ政局ノ善後一応片附キ

北京、広東、四川方面ノ政局ニ関スル唐紹儀ノ談話
報告ノ件

第二八二号

（九月五日接受）

九月三日唐紹儀ノ林出ニ語レル要領左ノ通北京ノ政局尚不安定ニシテ張、曹權ヲ専ラニスルコト安福派得意ノ時代ト何等異ナル所ナシ是レ一ニ徐世昌ノ罪ニシテ彼ハ袁ノ故智ニ倣ヒ奸策ヲ弄スルモ胆力衰ニ及バズ為ニ弊害甚ダ多ク徐其ノ位ヲ去ラザル間ハ常ニ同様ノ政争ヲ繰返ス外ナカルベシ安福派倒レテ段祺瑞、徐樹錚其ノ地位ヲ失ヒシト雖モ辺防軍ノ処置宜シキヲ得ズ曹錕ハ銀十元ヲ以テ兵士ノ銃一挺ニ換ヘントセシモ兵士ハ銃ヲ十元ニ換ヘンヨリモ之ヲ携ヘテ土匪ニ投ズルカ又ハ銃ヲ直接土匪ニ売ル方有利ナレバ曹ノ意ノ如クナラズ彼等ノ銃器ノ多クハ民間ニ散乱シ奉直軍ノ手ニ回收セルモノ僅カニ其ノ一部ニ過ギズ本年ハ北支一帯農作物不作ニシテ只サヘ土匪蜂起ノ憂アル上ニ二十万ニ近キ解散兵各地ニ入込ミ地方ニ禍スルコト必然ナレバ本年末ニハ北支擾乱ノ憂アリ加フルニ張作霖（脱）直隸派ノ反感高マリツツアレバ政局ノ前途悲觀ノ外ナシ広東方面ハ今日迄ノ処陳軍有利ニ進捗セシモ惠州ヲ攻ムルニハ「ヒガレイ」

ト称スル高山ヲ躡エザルベカラス此ノ地点陳ノ手ニ歸スレバ惠州容易ニ陥ルベク次テ広東守リ困難トナルベシ戰ノ勝敗ハ孰レトモ決定シ難キモ広東人ノ广西人ニ対スル反感甚ダシク無教育ニシテ殆ド読書人乏シキ广西派ガ広東広雅書院ノ書籍迄ヲ広西ニ運搬セシニ見ルモ其ノ如何ニ広東省ニ於テ横暴ヲ極メツツアルカヲ知ルニ足ルベク斯カル不自然ナル關係ハ永続スルモノニアラス今回広東人ガ拳ツテ陳ニ声授ヲ与ヘツツアルハ尤モノコトナリ四川方面ハ雲南派ニ有利トナリ今ヤ同地ニハ雲南軍三師三旅貴州軍一師一旅都合約五師團ノ兵アレバ重慶ニ軍政府ヲ設クルモ之カ保護十分アリ李烈鈞ハ本月十二三日頃迄ニハ重慶ニ到着スベク自分ノ重慶行ハ今尚未定ナリ

北京広東ニ転電漢口南京ニ郵送セリ

八二七 九月十一日

高木陸郎ヨリ
木村政務局第一課長宛

北京政府ノ対日方針ニ關スル北京駐在員ノ報告ヲ
送附ノ件

附屬書 在北京高昌公司ヨリ在東京高木陸郎宛政第十三号
書信写

ト可申候

尤モ日本政府ニ在リテハ段派ノ没落以來対支政策行詰リタリトテ一方ナラズ頭痛ヲ病ミ居ル次第ニ候ヘ共支那政府ハ又親米派トカ排日派トカ日本ヨリ目指サレ候ガ殊ノ外心苦シク此際ハ如何ニモシテ日本ノ感情ヲ融和致サント焦慮シ居ル次第ニ御座候但シ支那政府ガ斯ク日本ノ歛心ヲ求メザルヲ得ザルニ立チ到リシ内情ニ就テハ実ニ左記ノ如キ事情ノ介在スルモノニテ日本当局モ此弱点ヲ熟知シ居リ以テ機宜ノ手段ニ出デラレ候ハバ恐ラク大誤無之カルベクト愚考罷在候

一、対南關係仲々面倒トナリ来レル事

二、米國ハ万一ノ場合差シテ頼ミニナラザルヲ心附キタル事

三、國際聯盟ノ頼ミ難キニ氣附キタル事

第一、対南關係仲々面倒トナリ来レル事

支那現政府ハ最初南北妥協ヲ以テ左程困難ヲ感ズル事無ク成立シ得ベシト予想シ居リタルモノニ御座候然ル処広東広西兩派ノ内訌ハ南方派ノ到底一致シ難キヲ明瞭ナラシメタルノミナラス仮令従前ノ計画通り陸榮廷並ニ岑春煊ノ兩人

中国政府ノ対日方針ニ就テ

東京市麴町区有楽町一丁目一番地

高木合名会社 高木陸郎

外務省

木村銳市様

拝啓

支那政府ノ対日方針ニ就テ北京駐在員ヨリ来報有之候間写封中御高覽ニ供申候 草々

(附屬書)

高木陸郎宛北京駐在員ヨリノ報告ヲ

政第十三号

北京 高昌公司

東京

高木陸郎様

拝啓

支那政府ノ対日方針ニ就テ

昨日政第十二号ヲ以テ申上候通り支那政府ノ対日政策ハ目下全ク立往生ノ状態ニ有之万一現状ノ儘放置仕リ候ハバ新政府ハ誠ニ苦シキ立場ニ陥ラン事火ヲ賭ルヨリ明カナル儀

ト提携致シタリトテ雲南派及ビ一般民衆ノ懷柔ハ殆ド見込無キ所ナルノミナラズ現在ノ如ク雲南派ノ威勢ガ強大ト相成リ候以上ハ愈々以テ解決困難ト相成ル次第ニ有之候陸榮廷ハ最初ヨリ北方ニ心ヲ寄せ居リタルモノニ候間理トシテ北方ヨリ陸ヲ援助致スハ当然ニ候ヘ共今日ノ場合合北方政府ノ進ンデ唐ヲ對手ト致サンハ大局ノ上ヨリ見テ殆ド出来難キ所ニ有之、サリトテ陸ノ危急ヲ傍觀シテ一臂ノ力モ貸サザルニ於テハ陸亦北方ノ不信ヲ鳴ラシ反抗的態度ニ出ヅルハ必然ノ行掛リト可申候即チ北方ハ陸ノ反感ヲ招クヲ知りツツ尚ホ且ツ忍バザルヲ得ザルノ有様ニ候ガ茲ニ又見落スベカラザルハ安福俱樂部ニ段祺瑞一派ノ殘党ニ有之候唐一派ノ威勢今日ノ如ク優勢ナル所ニ段派ノ督軍其他唐派ニ呼応致スニ於テハ之レ亦由々敷大事ニテ所詮ハ直隸派没落ノ素因ヲ為スニ至ラン事誠ニ明白ノ次第ニ有之候、斯ク形勢ガ北方ニ不利ナル狀況ト相成リ居ル際北方ハ親米派ナリトノ誤解ヨリ日本ノ態度ガ南方援助トモ一變致スニ於テハ南方ノ益々増長致スニ引換ヘ北方ハ愈々窮地ニ陥リ可申又實際援助ト迄行カズ単ニ同情ト申スニ過ギザルニセヨ南方ハ多大ノ強味トナリ妥協等ニ対スル条件更ニ一段ノ峻厳ヲ極

ムベキハ必然ニ御座候サレバ北方トシテ目下ノ急務ハ早く親米派ナリトノ誤解ヲ釈キ少々位ノ犠牲ヲ払フモ尚ホ日本ヲ北方ニ引留メ置クニ有之是レ現ニ専心日本ノ歛心ヲ買ハント務ムル第一理由ニ有之候

第二、米國ハ万一ノ場合差シテ頼ミニナラザルヲ心附キタル事

米國ハ日本ヲ牽制スル場合ノミ最モ必要ナル次第ニテ支那内政上ノ問題ニ対シテハ何等効果アルモノニ無之候然ルニ日本ハ上述ノ如キ關係ヨリ目下之レヲ敵方ニ渡スハ北方ニ取り由々敷大事ニ有之却ツテ北方ニ引留メ置カントスル今日ニ候間米國側ノ同情ハ寧ロ邪魔物ノ感アル事勿論ニ候殊ニ財政上トカ經濟上トカ申ス方面ヨリ觀察致シ候テモ實際上ノ利益ハ誠ニ少ナク此点ヨリ見ルモ日本ヲ後援者ト頼ミ置ク方有利ナルハ当然ノ次第故旁々以テ親米の色彩ヲ打消サント努力仕ル儀ト被存申候

曹錕呉佩孚等ノ最初米國ノ同情ヲ得ント勉メタル形跡ハ蔽フベカラザル事実ニ候ヘ共是レ段派ニ対スル都合上斯カル方法ニ出ヅルヲ有利ナリト認メタル迄ノ事ニテ已ニ段派ヲ倒シタル今日再ビ變ジテ比較的有利ナル親日ニ改宗スルガ

御来燕ニ就テモ支那側ハ定メテ極力弁解致ス事ナラント予想仕リ居リ申候尤モ形勢ガ斯ク相成リ候ハ日本ガ主動の政策ヲ定ムル上ニ却ツテ有利ノ状態トモ申シ得ベク要ハ形勢ヲ巧ニ利用致スノ一事カト思考罷在候

先ハ御報告迄如斯ニ御座候 敬具

八二八 九月二十九日 在雲南藤村事務代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

唐繼堯南北和平問題ニ付テ成ルベク妥協ニ応ズル方針ナル旨内話ノ件

第七七号 (十月一日接受)

九月二十八日唐繼堯カ極秘トシテ本官ニ語りタル所左ノ如シ

孫洪伊一派ハ支那現在ノ勢力ヲ全然打破セントスル危險分子ナレバ久シク之ト道連スルハ厄介ナリ且最近靳雲鵬始メ各方面ヨリ頻リニ時局解決問題ヲ商議シ来リ和平統一(脱)ト認メラルルニ依リ自分ハ之迄屢々ノ宣言ニ対シ甚シク面目ヲ失墜セザル限り成ルベク妥協ニ応ズル方針ヲ採リ折角其ノ手続ニ付熟考中ナルガ(一)新旧国会ヲ同時ニ解散シ旧選舉法ニ依リ新ニ国会ヲ召集スルコトハ異議ナキモ上海和議

自己防衛上必要ナリト心附クニ至レル亦無理ナラヌ次第ト可申候要スルニ北方政府ハ米國ハ日本ヲ牽制スル上ニ極メテ便利ナル道具ナレ共今日ハ日本ヲ懷柔スルノ要アル關係上此道具ヲ利用シ難シト心附キタル迄ニ御座候

第三、國際聯盟ノ頼ミ難キニ氣附キタル事

最初國際聯盟ハ強國牽制上極メテ効果アルベシト予想致候モノカラ一時日本ノ反感ヲ買ヒツツモ尚ホ且ツ出来得ル限りノ努力ヲ尽シ来レル次第ニ御座候然ルニ其後ノ状況ハ事毎ニ最初ノ予想ニ反シ万一從來通り「プロバカンダ」ヲ繼續仕リ候ハバ却ツテ自國ニ不利ナルヲ心附キタル次第ニ有之候尤モ自國ノ不利ナル位ハ彼等ノ必スシモ介意スル所ニ無之候ヘ共後日ニ至リ馬鹿ヲ見ルハ支那全体ノ國民其物ニ非ズシテ政府ニ在リテ責任ヲ負ヒタル自派ノミニ過ギザル結果ト相成ル一事ガ誠ニ苦痛タル次第ニ御座候要スルニ盲目的ナル國民ノ歛心ヲ買ハン為メ架空のナル國際聯盟ニ倚頼スルハ遂ニ自己ノ立場ヲ失フニ至ルベキニ氣附キタルモノニテ畢竟ハ自己防衛上ノ都合ヨリ聯盟ヲ頼ミテ日本ノ反感ヲ招クハ好マシカラズト申スニ外ナラザル儀ニ有之候

以上述べタル所ハ全ク掛値無キ現政府ノ魂胆ニテ社長今次

ヲ再興シテ之ヲ決議スルコト(二)大總統ハ先キニ上海會議ニ於テ徐世昌ヲ仮承認スルノ案アリ之ニテモ異存ナシ(三)外交問題ハ正式政府ノ成立後其ノ最善ヲ竭シテ解決シ可ナリ右ハ總テ上海和議ニ依リ解決スル形式ヲ採レバ自分ノ面目モ立ツ次第ニシテ好都合ナリ

四川ハ再ビ成都ニ失敗シ雲南軍ハ目下資中ニ退却セリ仍ツテ自分ハ十月十日ニハ是非出発シ自ラ雲貴軍ヲ(脱)ヲ挽回スル考ナリ目下重慶ニハ国会並ニ(不明)總裁ノ代表アリ自分ノ右態度ヲ束縛スル懸念アルニ依リ当分四川ノ軍事解決ヲ口実ニ瀘州ニ留リ大勢ヲ觀察スル考ナリ尚北京方面ニ於ケル時局解決ニ対スル真意不明ニ付山県中佐ヲ派遣シ同方面ノ意向ヲ探ラシメ度ク考ヘ居レリ云々

北京、上海、広東ヘ転電セリ

八二九 十月四日 在奉天赤塚總領事ヨリ
内田外務大臣宛

日中親善ニ関シ張巡閱使トノ會談ニ付報告ノ件 (十月八日接受)

機密公第一〇三号

大正九年十月四日 在奉天

總領事 赤塚正助(印)

外務大臣伯爵 内田康哉殿

時局ニ対スル張巡閱使談話報告ノ件

時局ニ関シ九月三十日張巡閱使ノ本官ニ談話セル概要左ノ通り

一、倒段後ノ自己ノ立場(親日主義)

曹錕ト連盟シテ段祺瑞ヲ推倒セルハ事情万不得已ニ出テシモノニシテ元来自分ハ從來段派ノ一員トシテ多年ノ間親シク段ト提携セルモノナル処先般安直兩派ノ政争ニ際シ自ラ中立シテ兵ヲ動カサザルヲ期セル折柄段ノ部下ハ密使ヲ派遣シ来リテ我カ東三省ノ治安擾乱ヲ企画シタルノミナラズ我軍ニ対シテ敵対行動ヲ執ルニ至リシヲ以テ遂ニ段派ト兵ヲ交ユルニ至リテ同派ヲ掃蕩セルガ段派ノ倒潰ハ一見拳國民心ノ歡喜ヲ買ヒ得タリト雖這ハ単ニ英米ヲ背景トスル被煽動者ノ空噪ニシテ決シテ事實ノ民意ニアラズ然ルニ段派ノ倒潰後一般国人中東三省ノ事例ヲ援キ来リテ余ヲ以テ親日の荒国者ナリト誤解スル者アルノミナラズ曹錕、呉佩孚ノ如キモ当初痛ク余ノ親日態度ヲ責言シタルガ余ガ徐ニ將來ニ於ケル亜細亞人種ノ立場ヨリ欧米人ノ日支離間策ニ乗

ザルベカラズ余ハ日本ト特別關係アル東三省ヲ公私ノ立脚点トシテ我カ生涯ヲ委スルモノ然モ日本ノ余ニ対スル心証ハ東三省ニ於ケル既往數年間ノ兩國關係ニ顧テ之ヲ判断シ張ヲ以テ助クベキモノトセバ幸ニ援助ヲ請フ今ヤ支那政府ハ余ノ意見ニ基キ兩國親善提携実行ノ為メ于冲漢及唐在礼ヲ不日日本ニ派遣スルコトトナレルガ其之ヲ派スル所以ハ東亜兩國共存主義ヲ根底トシテ欧米人ノ恐ルベキ勢力ノ東漸ヲ防止センコトヲ熟議セシメンガ為ナリ云々

ト述ベタルニ付本官ハ我方ト特別關係アリ東三省ヲ根拠地トスル貴巡閱使ノ勢力ノ擴張セラルルコトハ欣幸ニ勝ヘザル次第ニシテ今回貴国政府ガ兩國親善ノ為于、唐兩氏ヲ日本ニ派遣スルコトモ甚ダ機宜ヲ得タル処置ナルガ該兩氏出發前貴巡閱使ニ於テ左記三項ヲ弁理セラルルコトハ極メテ緊要ナリト認ムル旨前提シテ

一、少クモ長江以北ノ各省督軍ニ対シ直接又ハ北京政府ヲ動カシテ排日行動ノ嚴重ナル取締ヲ勵行シ以テ該風潮ヲ潰滅セシムルコト

二、滿鮮国境地方ニ於ケル不逞鮮人ニ対シ徹底的討伐ヲ断行シテ日支兩國ノ將來ノ禍根ヲ除クコト

ズベカラザル所以ヲ説示セル処彼等ニ於テモ十分釈明スル所アリタリ今ヤ中央政府ニ於ケル靳總理、曹錕、葉恭綽ノ如キ各要路者ニ於テハ孰レモ余ト特別關係アリ好デ余ガ言ヲ納ルルヲ以テ余ノ意見ヲ遂行スルニハ極メテ好都合ナル立場ニアリ

二、南北統一ニ対スル日本ノ援助

余ハ中央政局ニ対シ大總統タルガ如キ何等ノ野心ナシ惟ダ衷心冀フ所ハ支那全土ノ治安ヲ完全ニ保持スル為南北和議ヲ促進スルニ在リ今ヤ察哈爾都統ニ張景惠ヲ任命シ又遠カラズ熱河ヲ我ガ勢力範圍内ニ編入スル心組ニテ此又追テ実現セラルベク南苑以下山海関内ニ駐屯スル我軍隊ハ依然之ヲ留駐セシメ更ニ東三省ニ於テ七個ノ混成旅團ヲ編成スル意思ニシテ長江以北各省督軍連中ニハ我方ト特別關係アル者數カラザレバ先ヅ北方ノ團結ヲ鞏固ニシテ進デ南北ノ統一ヲ図ラントス抑モ支那開国以來南北相對峙シテ南方ノ為ニ征服セラレタル事例ナシ現ニ南方ニ於テモ最有力者タル陸榮廷ノ如キハ常ニ余ト連絡アルヲ以テ余ハ同人ト提携シテ統一ニ便セントス余ノ自国ニ対スル意見ハ概要上述ノ如クニシテ右意見ヲ実行スルニハ是非トモ日本ノ考量ヲ仰ガ

三、蒙古開發ノ為日本人ノ同地方ニ於ケル事業ハ成ルベク支那人ト提携シテ之ヲ行フト共ニ支那官憲ニ於テハ右ニ對シ相当便宜ヲ供給スルコト

ノ三項ヲ述ベタル処同巡閱使ニ於テハ(一)排日行動ノ取締ニ就テハ十分尽力ヲ試ムベク殊ニ本年度北支那地方ノ饑饉ニ對シ在東京日本実業家連中ニテ多大ノ米穀ヲ寄贈セントスル計画アルコトモ仄聞シタルガ果シテ事實ナルニ於テハ日本ノ斯ノ如キ好意ニ對シ支那政府ガ国民ノ排日行動ヲ絶滅セシメテ日本ニ報ユル所アルベキハ当然ノ事理ニシテ余ニ於テ徐總統ヲ動カシテ更ニ排日運動禁止ノ命令ヲ發セシムルト同時ニ自ラ使者ヲ各省ニ派遣シテ排日運動ノ緩和ヲ誘説スベシ(二)滿鮮国境地方ニ於ケル不逞鮮人ノ武装団体ヲ根本的ニ掃蕩スルコトハ支那ニ於ケル馬賊並ニ露国過激派トノ連絡ヲ予防シテ大禍ヲ未然ニ防グベキ見地ヨリ当然之ヲ断行スル決心ニテ右ニ對シ奉天省ヨリ一旅ノ援兵ヲ吉林ヘ急派スル予定ナリ(三)蒙古ニ於ケル事業ハ兩國条約ノ規定ニ從フ外方法ナシト認メラルルガ不日于冲漢渡日ノ事ニモアリ日本側ニテ我方官憲ガ日本ノ蒙古ニ於ケル事業ヲ妨害スルガ如ク誤解セラルルハ面白カラザルニ付右ニ對シテハ我

ガ意ノ存スル所ヲ于ニ伝ヘテ日本側ノ誤解ヲ釈明スルニ勉ムベシ云々ト答ヘタルニ付本官ハ要スルニ蒙古ニ於ケル日本人ノ事業ニ対スル貴国官憲ノ好意ハ之ヲ事例ニ示スコト肝要ナレバ本邦人關係ノ合辦事業ヲ速ニ許可成立セシムルコトニ尽力セラレタキ旨勸説シタル処同巡閱使ニ於テハ之ヲ承諾セリ右為御参考及報告候 敬具
本信写送付先 在支公使 関東長官

八三〇 十月三十一日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

南北統一ニ関スル大總統令及国会召集ニ関スル大總統令發布ノ件

第一一五二号 (十月三十一日接受)

広東ノ瓦解南北ノ統一ニ関シ十月三十日附大要左ノ如キ長文ノ大總統令發布セラレタリ
「南北ノ統一ハ本大總統就任以来ノ切望ニシテ海内ノ有識者及友好諸邦ノ勸告スル所ナリ曩ニ李純ハ一死ヲ以テ之ニ殉シ近ク又軍政府首席總裁岑春煊ハ国家ヲ分裂スルニ忍ヒス即日隱退ヲ宣言シ軍府ヲ収束セリト電報シ来リ陸榮廷林葆懌ノ電報モ亦同様ナリ自ラ応ニ広ク輿情ヲ取り統一ヲ速

成セシムル為國務院及主管ノ部員ヲ責成シ各該省軍民長官ト商議シ宜シク一切ノ善後事宜ヲ辦理シ以テ中華民國維新ノ運ヲ鞏固ニスヘシ」

又同日別ニ大總統令ヲ以テ民国元年八月十日公布ノ国会組織法及選舉法ニ依リ各省長官ハ速ニ選舉事宜ヲ辦理スヘキ旨發布セラレタリ右ハ政学会一派岑春煊ノ瓦解ニ乗シ旧組織法ニ依リ国会ヲ召集スヘシトノ体裁ノ下ニ時局ヲ收拾シ南北ノ統一ヲ装ヒ宣布シタルモノト一般ニ解釈セラルモ實際統一ハ前途尙遼遠ナルモノト推測セラル
全文訳報ス

八三一 十一月十二日 在北京坂西少將ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

南北統一令發布後ノ中国政況ニ関スル中国当局ノ判斷及日本ニ対スル希望並坂西少將ノ觀測報告ノ件

坂極秘電第九一号 (十一月十七日外務省写接受)
統一令發布後十日ヲ經タル今日支那当局ノ政況判斷ト帝國ニ対スル希望左ノ如シ
命令發布後直チニ統一完成ヲ期待シ居ラサルモ兎ニ角李純ハ統一ノ成ラサルヲ嘆キテ自殺シ有名無実ナカラモ軍政府

首席總裁岑春煊カ陸榮廷ト共ニ自主ヲ取消シ其引繼ト旧法ニ依ル新国会ノ組織ヲ主張シ其發表ヲ希望シタルニ依リ北京政府トシテ之ヲ拒絶スル必要無ク苟モ中央ニ歸依セントスルモノハ悉ク之ヲ収用スヘキ事当然ナルヲ以テ之カ發布ヲ断行シ民国元年八月十日公布ノ法ニヨリ新ニ選舉ヲ行フヘシト令シ又法律問題解決ノ方針ヲ確定セリ而シテ新旧両国会ノ問題ニ触レサル所以ノモノハ命令ヲ以テ法律ヲ取消ス能ハサル為メナルト新国会ノ消滅ハ同国会ノ推薦セル徐總統ノ消滅ナルト同時ニ此總統カ旧国会ニ関シ彼

是スル權無キ為メニシテ唯最近(?)四川軍ハ中央ニ連絡アリト称シ湖南譚延闓ハ無勢力ナルモ趙恒惕部下二万ヲ擁シテ中央ニ連絡セントシ貴州ノ劉顯世モ亦全シク秋波ヲ送り広西ハ自主取消ノ率先者ナル故連絡確實ナルモ唯広東ト雲南トノ情況ハ未定ナルモ暫ク不問ニ附シ専ラ北方各省就中兎角噂アル曹錕張作霖間ノ確執ノ如キ断シテ皆無ナラシムヘク努メ其團結ヲ強固ニシツ、人材主義ニヨリ内閣ヲ組織シ而モ中央ハ一兵ヲ有セス政費節減軍隊撤財政整理地方自治ヲ勵行シ尙同情ヲ列強殊ニ帝國ニ求メテ徐ロニ統一ノ効ヲ奏シ得ラルルモノト考ヘラル

二、軍事協定廢止ノ希望ヲ諾セラレタルモ亦感謝ニ耐ヘサルモ之ト共ニ東支沿線駐兵承認ヲ求メラル、ハ折角ノ好意モ唯ニ反対派及第三國ニ乗セラレ其価値ヲ減ス故ニ此際殊更ニ声ヲ大ニシテ軍事協定廢止ヲ叫ビ駐兵ハ單ニ相互ノ理解ニ止メラレ度シ

三、プロバガンダ最近饑飢救済ノ為関稅率増加ニ対シ貴國政府カ率先承認セラレタルハ支那トシテ最も多ク貴國ヨリ恩恵ヲ蒙ルモノナルニ係ラス早クモ第三者ノ離間中傷ニ依リ日本ハ英國政府ニ教示セラレテ承認セリト宣伝シツ、アルカタメ一般ハ貴國ニ感謝セサラントスルハ頗ル遺憾ナリ御互ニ宣伝ニ努メ度シ云々

由來北京當局者ノ觀察ハ概シテ樂觀ニ傾ケリ然ルニ小官ノ見ル処上海民衆ハ政学会全部ノ者ヲ第二ノ安福派ト見做シ之ヲ仇敵視シ統一令ニ反對シ孫文ハ既ニ北ノ張作霖南ノ陸榮廷等シク賊ナルカ故ニ之ヲ倒サ、レハ已マスト称ヘ寧ロ上海ニ段祺瑞ヲ迎ヘ共ニ統一ヲ計ルノ意見ヲ有シ唐紹儀ハ嘗テ王揖唐代表中竊ニ徐世昌ト連絡シ旧国会議員ヲ上海ニ誘致シ広東軍政府ノ消滅ヲ計リタルモ彼等カ徐世昌ヲ一先臨時大統領トスヘキヲ主張シタル為メ之ヲ聞キタル徐世昌ハ驚キテ之トノ連絡ヲ断絶シタルヲ怨ミ盛ニ徐總統ヲ難駁（？）シテ統一命令取消ヲ主張シ尚ホ自己ノ立場上北方ニ正式総代表ヲ派遣シ統一ノ形式ヲ完全ナラシムヘシト敦囑キ居レルモノノ如ク陳炯明一派ノ広西圧迫ハ次第ニ効ヲ奏スルカ如ク湖南譚延闓趙恒惕ノ勢力案外予期ノ如ク大ナラス而モ雲南軍四川ヨリノ退却ハ必スシモ失敗ノ結果ニアラスシテ民衆連カ各省ハ其ノ省人ニテ治ムヘシト云フ主義ヲ認メタル結果ナリトシ福建、浙江ノ態度モ亦曖昧ニシテ湖北王占元ノ位置モ亦動搖シ吳佩孚ハ兎角民衆ニ偏セントスル傾向アルニ拘ハラス徐總統ハ尚之等當ニナラヌ武力ニ頼リ靳總理ノ如キモ張作霖トノ親戚關係ヨリ兎角之ニ偏倚シ

彼ノ馬賊的行動ニ対スル一般不良ナル人氣ヲ度外セントスル風アルハ支那ノ前途ニ対スル危險ノ伏在スル処ニシテ北京政府トシテハ更ニ進テ民衆トノ連絡少クトモ若干之ヲ諒解ヲ求ムルニ非サレハ新ニ軍政府ノ現出スルナキヲ期スヘカラス果シテ然ラハ統一ハ永遠ニ不可能ナルヘシ而モ其ノ法ナキニアラス彼ノ民衆モ之ヲ望ミ居レリ帝國官民亦此ノ機微ヲ察シ指導ヲ要スト信ス蓋シ支那ノ統一成否ハ帝國ニ影響スルコト大ナルモノ有レハナリ

八三二 十二月四日

在奉天赤塚總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

北京政府ガ東三省外交ヲ中央直轄ニスルコトヲ企テ
居ルコトニ關シ張作霖談話ノ件

第四七七号

（十二月四日接受）

本月三日張巡閱使ノ本官ニ直話セル所ニ依レハ北京政府ニ於テハ過般來東三省外交ノ中央政府直轄ヲ企テ自分（張）ノ同意ヲ需メ來リタルカ何故ニ政府カ斯クノ如キ舉動ニ出ツルヤ解スヘカラサル所ニシテ自分ハ本件ニ關シ政府ニ回答スルノ必要ヲ認メサルヲ以テ之ヲ放置セルガ惟フニ于冲漢ノ渡日以来種々牽強附會ノ臆說流布セラレタル結果ナリ

（附屬書）

鮑督軍ノ近状及同人ノ対日感情

（十二月四日
北滿洲特務機關報）

要旨

一、吉林鮑督軍ノ対日感情稍々惡化ノ傾向ヲ來シ排日の行為ハ漸次露骨トナリツツアリ

二、張作霖ノ東支線上ニ於ケル勢力ハ漸次増大シツツアリ哈爾濱護路軍張煥相ノ密ニ林聯絡員ニ語ル処ニ依レハ近時鮑督軍ハ諸事奉天ヨリ掣肘ヲ受ケ凡テ意ノ如クナラス勦匪方面ニ於テハ其ノ実績挙ラサル為吉林軍團長三名ヲ誡首シテ奉天系ノ者ヲ以テ交代セシメラレシコトアリ又護路軍方面ニ於テハ西部線ノ如キ悉ク孫督軍ノ專制ニ依テ決セラレ東線ニ在リテハ張學良ニ依リテ左右セラレ彼ノ勢威日ニ非ナルモノアリ殊ニ無能ナル參謀長胡文藻ノ為ニ誤マラレ殆ト致命傷タルヘキ不逞鮮人問題ニ關シテモ胡ノ言ヲ信シ從來之ヲ重大視セス日本側調査ヲ以テ誇大ナリトシ共同調査ヲ為シツツアル矢先端ナクモ彈春事件ノ勃発ニ依リテ日本側主張ノ如ク其ノ真情ヲ暴露シ其ノ勢力侮ルヘカラサルモノアルヲ立証セラレ全ク其ノ面目ヲ失スルニ至リ一身ニ其ノ責任ヲ負ハントシ張巡閱使ニ対シ辭職ヲ上申中ナリ、又

公使ニ電報シ吉林、總督、長官ヘ郵報セリ

八三三 十二月十六日 閩東軍參謀部ヨリ
外務次官宛

吉林督軍鮑貴卿ノ近状及同人ノ対日感情報告ノ件
附屬書 右報告書

閩參謀第九四二号

（十二月二十二日接受）

大正九年十二月十六日 閩東軍參謀部

特報（支那）第四六号

鮑督軍ノ近状及同人ノ対日感情

本書發送先

參謀次長	駐劄師團參謀長	青島守備軍參謀長
陸軍次官	鐵嶺駐劄旅團長	中支那派遣隊司令官
外務次官	獨立守備隊司令官	台灣軍參謀長
閩東庁事務總長	朝鮮軍參謀長	上海駐在武官
旅順要塞司令官	同軍憲兵隊司令官	濟南駐在武官
同要港部參謀長	同總督府御用掛武官	駐劄師團各聯隊長
閩東憲兵隊長	支那駐屯軍司令官	

一面其ノ政敵タル前省長徐鼎霖一派ハ好機乘スヘシトナシ
 蹶起シテ之ヲ吉林ヨリ驅逐セントシ排斥中傷至ラサルナク
 鼎ノ輕重ヲ云々セラルルニ至リ鮑や今蕭牆ノ内近ク怨嗟ノ
 声ヲ聞クニ及ヒ日夜輾轉煩悶シ稍精神ノ平靜ヲ欠キ侍臣ヲ
 叱怒スル等異状ヲ呈シ失意ノ境遇ニ呻吟スル彼ノ状況寧ロ
 同情スヘキ状態ニ在リト謂フ前記ノ件ハ張煥相ノ性格ニ照
 シ全幅ノ信用ヲ払ヒ難キモ從來左程ニモ無カリシ彼ノ対日
 感情ハ稍々惡化ノ傾向ヲ來シ近時ノ举措協同親善ノ意ニ背
 馳スルモノ尠カラス或ハ第三者ノ宣伝等モ之カ源因ヲ為ス
 ヤ計リ難シト雖警察事項及警備上ニ於テ其ノ実更ニ挙ラサ
 ルニ顧ミス日本側ヲ排斥センコトニ努メ事毎ニ主權主權ト
 主張シツツアリ其ノ一例ヲ挙ケン十一月ニ於テモ「ボク
 ラニ―チナヤ」ニ於テ日本憲兵擅ニ鮮人ヲ拉致シ之ヲ毆打
 シタルハ主權ニ関スルモノナリト抗議シ來リ又審門ニ於テ
 ハ日本人ヲ驅逐スル策トシテ警察側ヨリ日本人ニ家屋ヲ貸
 与スヘカラスト内示スル等排日的行爲ノ漸次露骨トナリツ

ツアルヲ覺ユ目下彼カ脳裡ニハ日本側ト協力シテ不逞鮮人
 ニ對セントスルノ誠意ニ於テ欠如スルモノアルヲ疑ハサル
 ヲ得ス
 要スルニ今ヤ彼ハ其ノ有名無実ナル總司令ノ職ヲ辞シ復雜
 ナル交渉事項ヨリ遠サカラントスルノ念慮急ナルモノアリ
 テ張煥相ノ言等ヲ綜合判斷スルニ彼ノ總司令ノ交迭ハ本年
 末迄ニハ其ノ實現ヲ見ルニ至ルヘキモ督軍及省長ノ位置ハ
 特別ノ事情ノ發生セサル限り變化ナキモノト推想セラレ
 闕朝璽ハ性來溫良唯々トシテ張巡閱使ノ命ヲ奉スルニ過
 サル無能ノ人物ナリ彼ハ吉長鎮守使トシテ長春ニ又勦匪司
 令トシテ一面坡ニ駐屯シ從來日本軍ト接スルコト尠カラサ
 ルモ其間円満ニシテ特ニ指摘スヘキモノナカリシヨリ察ス
 レハ彼ノ總司令タルハ鮑貴卿及其ノ腹心張煥相ノ在職スル
 ニ比シテ張作霖ノ東支線上ニ於ケル勢力ハ頓ニ増大スヘキ
 ヲ予想セシム

日本外交文書 大正九年 第二冊 下卷 終

附錄 日本外交文書 大正九年第二冊 日附索引